



徳島大学渭水会々報

第50号

発行／徳島大学渭水会
徳島大学総合科学部同窓会

題字：田中 双鶴 氏



「森への誘い」

松永 勉 氏

国道55号線バイパスの徳島市沖須賀、園瀬川にかかる大野橋北詰交差点のポケットパークにある高さ5m余りのモニュメント。徳島県文化の森総合公園が完成した時、徳島県より依頼され制作した。全体の形は、徳島の「T」の中に文化の森の5つの館が連携する姿を表現した。

関連記事→P16



【渭水会々報第50号】

50号を振り返って



渭水会々報が第50号という節目を迎えました。

昭和61年（1986）4月より学部改組によって、教育学部は総合科学部に生まれ変わりました。それに伴い、明治7年（1874）徳島師範期成学校開校から学芸学部～教育学部と長い歴史と伝統を持つ同窓会も、「徳島大学渭水会」として新たなスタートを切りました。

渭水会々報は昭和61年（1986）12月に第1号が創刊されました。B5版のモノクロ印刷で、会長挨拶や総会の報告などが主な内容でした。第9号（平成5年12月発行）では、表紙が初のカラー印刷となり、河崎良行先生（現在は徳島大学名誉教授）制作の「調和と発展—建学120周年記念モニュメント模型」を紹介。以後、絵画、彫刻、書など会員による芸術作品が表紙を飾るというスタイルが続いています。これは、美術や書道などの芸術教科を有する総合科学部ならではのスタイルです。

平成8年（1996）から10年間は年2回（1～2月と秋）発行のサイクルとなり、平成18年（2006）の第33号から年1回の発行に。A4版になり、新しい企画やコラムなど内容も一新されました。さまざまな年代、分野の会員の方が寄稿してくださり、年々充実してきています。第50号記念として、「プレゼント付き読者アンケート」の特別企画もご用意していますので、ふるってご参加ください。

今後とも皆様に楽しんでいただける誌面作りに努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

広報委員一同



渭水会々報創刊号。題字は初代会長で書家の田中双鶴氏の書き下ろしで、現在も継承しています



美術や書道などの芸術作品が表紙を飾り、格調高い雰囲気です

目次

会長ご挨拶	渭水会会長 濱尾 巧久 ……	4
学部長就任のご挨拶	総合科学部長 高橋 晋一 ……	5
Topics 『子どもが作る弁当の日「めんどくさい」は幸せへの近道』	ノンフィクションライター 城戸 久枝 ……	6
特集 笑顔を生み出すひと [ボランティア活動のリーダーたち]		
●木のぬくもりに包まれて、おもちゃ作りを楽しめる「阿波手づくりおもちゃ館」	………	8
●「園瀬川の清流を守る会」の活動があじさいロードをつくるまで	露口 玲子 ……	10
研究最前線⑨ ルーヴル美術館とホスピタルアート	総合科学部 社会総合科学科 国際教養コース 准教授 田中 佳 ……	12
コンサル人類学者大地に立つ：世界農業遺産の認定や保全への文化人類学的関与	総合科学部 社会総合科学科 地域創生コース 准教授 内藤 直樹 ……	13
連載③ パターン認知の心理をめぐって		
●輪郭線とは何か	徳島大学名誉教授 濱田 治良 ……	15
彫刻を通じてドイツと交流	松永 勉 ……	16
連載⑧ 私の職場 My Workplace		
●やりたかったことが叶う場所	永山 愛 ……	18
総科をたずねて④		
●誰も知らないことがわかる研究はおもしろい！「総合科学部だからこそ成層圏」へ！	総合科学部 社会総合科学科 地域創生コース 准教授 佐原 理 ……	20
特集 徳島大学発ベンチャー ……		22
●AIの新しい可能性 ～AIで文書に魂を吹き込む～	総合科学部 教授／大学院 社会産業理工学研究部（社会総合科学域）教授／徳島大学デザイン型AI教育研究センター 石田 基広 ……	24
●動物に質の良い暮らしを届けるために	前田 晏里 ……	25
笠井文夫さんについての情報をお寄せください ……		27
剣山での牧野富太郎と笠井文夫：笠井文夫とは誰なのか？	徳島県立博物館上席芸員（植物担当） 茨木 靖／徳島県立博物館ボランティア 久米 啓介 ……	28
輝く新星⑦ ～第7回渭水会会長賞～		
●きっとできる	山下 裕子 ……	30
●出会いは人生を豊かにし、別れは人生を深くする	佐野みどり ……	31
●今後につなげる4年間	鈴木 菜穂 ……	32
●当たり前ではない環境に感謝	山下 真美 ……	33
●渭水会会長賞表彰要項 ……		34
エッセイ		
●2021雑感	志内 哲也 ……	35
助成事業		
●徳島市退職校長会講演会	宮北美恵子 ……	36
●徳島県退職女性教職員の会 学習会	富田真由美 ……	37
総科ニュース ……		48
徳大ニュース ……		50
事務局だより・編集後記 ……		52
常三島今昔①		
●キャンパスに飛行機の格納庫！？		



渭水会会長
はま お よしひさ
濱尾 巧久

ご挨拶

会員の皆様には、日頃より渭水会の活動にご理解とご協力をいただいておりますことに心より感謝を申し上げます。

令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、例年5月に総会を開催予定でしたが理事会をもって総会に代えさせていただきました。

令和3年度はきっと総会が開催できると考え諸準備を進めて参りました。ところが令和3年に入っても感染の収束はみられないどころか、変異株の流行により状況は一段と厳しくなっております。

そこで、去る4月23日(金)に常任理事会を開催し、令和2年度の事業報告・決算報告並びに令和3年度の事業計画・予算案をご審議いただきました。

常任理事会では、昨年と同じく理事会をもって総会に代えること、理事会は書面決議とすることを決定し、理事17名に資料を送付し各議案への賛否について「承諾書兼議決権行使書」にご署名の上ご提出いただきました。その結果、理事全員の賛成をいただき原案通り承認可決されました。

尚、徳島大学渭水会々報も、昭和61年12月に第1号が発刊され今回で第50号となりました。第1号の会報の巻頭言に徳島大学渭水会々長の田中繁夫先生が渭水について次の様に述べられております。

——元々「渭水」とは中国の「渭川」のことで、古文書にも所載のように城山を渭山、徳島城を「渭津城」、助任川を「渭水」と呼ぶようになったと言われます。古く師範学校時代から「渭水会」「渭水会館」「渭水寮」など懐かしい名称が使われ、今この名前が同窓会の会名に決まったことは、往時を知る人には懐古の情に堪えないものがあると思います——

更に、一宮俊一先生の理事長退任あいさつの中に、教育学部が総合科学部に改組され「同窓会はどうなるのか」「どういうかたちで存続したらよいのか」ということで議論を重ね、慎重な議論の末に「従来の教育学部と今後の総合科学部を連結し包含した新しい同窓会として歩むことが適切である」との結論を得、新しく「徳島大学渭水会」としてスタートしたとあります。

それから時代を経て、今回の会報第50号の発刊となりました。それぞれの会報にはその時代時代が反映され渭水会の着実な歩みが報告されてきました。これまでの諸先輩のご努力に敬意を表しますとともに、皆様方と共に「徳島大学渭水会」の更なる発展を願うものであります。

令和4年度は「コロナワクチン」の普及が進み「コロナ感染」を乗り越えた新しい時代が到来することが期待されています。「100歳ランナーの物語」の夢をあきらめなかったファウジャとは比べようありませんが、いつまでも何かにチャレンジする生活を送りたいと考えています。来年、私は80歳(傘寿)を迎えます。まず第1歩として80歳・8km・80分に挑戦しようとジョギングを始めました。「スポーツの力」「スポーツの楽しさ」を味わいたいものです。

最後に、会員の皆様方のご理解とご支援をいただき新しい「渭水会」の出発を目指して参りたいと考えておりますので、今後ともご尽力いただけますようお願い申し上げます。

(昭和40年 学芸学部4年制小学校課程卒)



総合科学部長
たかはし しんいち
高橋 晋一

学部長就任のご挨拶

渭水会の会員の皆様には、常日頃、様々な形で総合科学部並びに大学院の教育・研究・運営をご支援いただき、ありがとうございます。

この4月より、栗栖聡前学部長の後任として、学部長に就任いたしました。今後とも、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。出身は神奈川県横浜市で、青森県の弘前大学での勤務を経て1995年4月に徳島大学に着任しましたが、早いもので、徳島での生活も27年目に入りました。専門分野は文化人類学・民俗学で、最近は県内の特色ある地域文化（祭りや民俗芸能、食文化等）の調査研究を集中的に進めております。

昨年来の新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度前期の授業の多くはオンライン中心で進められる形になりましたが、こうした状況の中、オンライン教育の質を高める取り組みを進めるとともに、授業におけるZoomやTeamsのブレイクアウトルーム機能の活用（少人数での意見交換や交流）、学生主催のオンライン学生交流会の開催など、コロナ下においても教員と学生、また学生同士がつながる機会を作るさまざまな試みを行っております。一日も早く日常が戻り、教職員と学生が安心してフェイス・トゥ・フェイスで交流できるキャンパス生活が戻ってくることを心より願っております。

なお、オンラインの活用により、空間の制約を超えて学外、さらには海外の方々と交流する機会が増えたことは、教育の幅を広げ、質を高めることにもつながりました。コロナ収束後も、教育・研究等におけるオンラインの活用について、積極的に考えていきたいと思っております。

昨年度、総合科学部のホームページをリニューアル

いたしました（<https://www.tokushima-u.ac.jp/ias/>）。学部の近況などは、トップページの「イベント」や「お知らせ」でお伝えしております。国際教養・心身健康・公共政策・地域創生の各コースのページでは、教員の語るコースの魅力、学生の声、主な就職先と内定率、4年間の学びの流れなどを紹介させていただいております。画像や映像などのビジュアルな情報も含め、学部・大学院の魅力をできるだけわかりやすくお伝えできればと考えておりますが、まだまだ不十分な点が多々あるかと存じます。お手すきの際にぜひご覧いただき、ご意見など遠慮なく頂戴できればありがたく存じます。

また昨年度、総合科学部に接続する新しい大学院「創成科学研究科」修士課程が設置されました。同研究科は、地域創成・臨床心理学・理工学・生物資源学の4専攻からなる文理横断型の大学院で、うち地域創成・臨床心理学の2専攻が、総合科学部から直接つながる文系の専攻になっています。大学院では、各学生の専門分野を軸に、総合的・グローバルな視点を踏まえ、地域活性化、健康社会づくり、国際交流の推進、心の健康の回復と保持増進などさまざまな地域課題の解決に貢献できる高度実践人材を養成します。現在さらに、修士課程の上につながる博士後期課程の設置を計画中です。

学部、大学院も年々変化、成長をしておりますが、明治7年（1874年）の徳島師範期成学校の創設以来、150年目の節目の年が近づいてまいりました。長い歴史と伝統の重みを受け止めながら、会員の皆様のご期待に添えるような学部、大学院を実現できるよう努めてまいります。今後とも皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



『子どもが作る弁当の日 「めんどくさい」は幸せへの近道』

ノンフィクションライター き ど ひ さ え
城戸 久枝

この仕事をはじめて、16年くらいになります。私がこれまで一番深く、そして長く取り組んでいたテーマが、「戦争」です。中国残留孤児だった父のことを知りたいと取材をはじめ、「あの戦争から遠く離れて」という本を上梓しました。それから戦争体験者の人たちから、お話を聞く多くの機会を得られました。ある90代の男性にこう言われました。「戦争の痛みは、体験したものにしかわからねえ」。私も体験者から話を聞いたたびに、痛感してきたことです。ただ、こうも思います。戦争を体験した人がいなくなってしまうたら、戦争は忘れられてしまうのではないか。そうなったらどうなるのか。間違った方向に向かってしまうことはないだろうか。私は、中国残留孤児の娘として、もう二度と、こうして家族を引き裂かれるような悲劇は繰り返されてはならないと思っています。その思いを次の世代にもつなげていきたい。私にできることは何なのか、そう考えたとき、私は自分の息子に、家族につながる歴史をつたえようと思いました。10歳の息子が小さいころから、じいじのこと、戦争の話を少しずつ聞かせています。2019年には「じいじが迷子になっちゃった」という、子ども向けの本を書きました。表紙や挿絵は、阿南市在住の絵本作家、羽尻利門さんに書いていただいています。

子どもたちの未来のために何ができるのか……。それが今、私のなかで大きなテーマになっています。昨年11月、新刊を出しました。タイトルは「子どもが作る弁当の日 めんどくさいは幸せへの近道」。「弁当の日」というのは、子どもが一人で献立、買い出し、調理、弁当箱詰め、片づけ、すべて子ども一人でする取り組みです。大切なルールがひとつ。親は決して手伝わないで。この弁当の日を提唱したの

は、元校長の竹下和男さん。でも、これは、ただの食育ではありません。育児放棄、子どもの貧困など、子どもたちを取り巻く環境が今厳しくなっています。そんな子どもが育つ環境を変えたい……竹下さんの願いからこの取り組みははじまりました。今は全国2000の学校で弁当の日が行われています。そして2021年春、「弁当の日」がドキュメンタリー映画になりました。監督は「はなちゃんのみそ汁」著者の安武信吾さん。9年前、取材を通じて知り合ってから、交流を続けてきた安武さんから、ドキュメンタリーの撮影と同時進行で書籍を執筆してほしいと依頼を受けました。

私はこの取材をはじめると、弁当の日のことをよく知りませんでした。実は私は家事料理が苦手。子どもを台所に立たせるなんてめんどくさい!と思う母親でした。でも取材を通じて、子どもたちの未来のために、一生懸命になる大人たちや、弁当の日を経験して、変わっていく子どもたちの姿を見ました。弁当の日って、結構いいかもしれない…本のなかでは、私が弁当の日を理解していく過程を書いています。撮影の間、家をあけることが多かったのですが、夫が全面的に協力してくれました。息子もお手伝いをしたり、自分でお弁当を作ったり、いろいろ協力してくれました。家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

2年半の取材を経て、映画は無事完成しました。2021年4月から自主上映という形で全国で上映会が開かれています。書籍も昨年11月に映画に先行して、文藝春秋より出版されました。ぜひ徳島の皆さんにも、書籍とともに、映画「弁当の日」を見ていただけたらうれしいです。また、書店で本を見かけたら、手に取っていただけるとうれしいです。

弁当の日提唱者である竹下和男先生は百年後の未来について、子どもたちが生きる明るい未来を思い、弁当の日をはじめました。子どもたちの未来を思う願いは、戦争の記憶を語り継ぎ、子どもたちの平和な未来を願う気持ちと重なるように思います。戦争体験者の記憶を次の世代へ語り継ぐ。これからも、私はずっとこのテーマを追いつけていきたいと思っています。

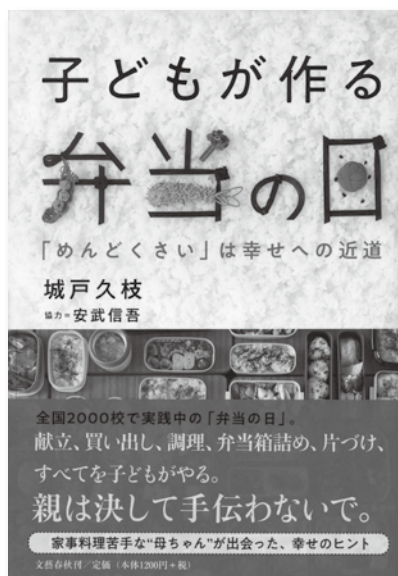
(平成12年 総合科学部人間社会学科
日本・東洋地域研究コース卒)

●プロフィール

城戸久枝(きど・ひさえ)

ノンフィクションライター・聞き書き家。

1976年、愛媛県出身。徳島大学卒。97年、中国・吉林大学に国費留学。『あの戦争から遠く離れて 私につながる歴史をたどる旅』(新潮文庫)で大宅壮一ノンフィクション賞など、『じいじが迷子になっちゃった あなたへと続く家族と戦争の物語』(偕成社)で、第5回児童ペン賞大賞。映画『弁当の日』ではナビゲーターと書籍(『子どもが作る弁当の日「めんどくさい」は幸せへの近道』文藝春秋)担当。



渭水会々報第50号記念
読者プレゼント(→P53)

子どもが作る弁当の日

「めんどくさい」は幸せへの近道

城戸久枝 著

文藝春秋 2020年11月刊

1,320円(税込)

徳島大学創立70周年記念限定版 渭水会クリアファイル

徳島大学創立70周年記念(2019)ホームカミングデー開催に際して制作した渭水会オリジナルクリアファイル。総合科学部社会総合科学科 地域創生コース准教授 佐原 理先生によるデザインで、表面には東京オリンピックの聖火リレー、裏面には昭和30年代の常三島キャンパスの画像があしらわれています。

手元に少し残っておりますので、ご希望の方に1枚100円(送料別)でお分けしたいと思います。購入ご希望の方は、電話・FAX・郵便・E-mailなどで渭水会事務局へお申ください。数に限りがございますので無くなり次第終了となります。ご了承ください。



[表]



[裏]



笑顔を生み出すひと

ボランティア活動のリーダーたち

子ども達が安心して遊べる環境を作りたい、美しい川を地域の誇りに……
地域のなかでさまざまなボランティア活動に打ち込む人がいます。
笑顔を生み出すボランティア活動で、自らが輝く人々をご紹介します。

木のぬくもりに包まれて、おもちゃ作りを楽しめる「阿波手づくりおもちゃ館」

夏のある日曜、木のおもちゃ作り名人・井村雄三さんの「阿波手づくりおもちゃ館」を訪ねました。

阿波市役所の近くの田園風景の中に立つ、一見すると普通の民家。かわいい木の看板の傍らで、彫刻刀を手に制作にいそしむ井村さんの姿がありました。

井村雄三さんは、鳴門教育大学付属養護学校（現：鳴門教育大学付属特別支援学校）の副校長をされ、障がいをもった子どもたちが楽しめるおもちゃや教材作りに力を注ぎました。四国大学でも教鞭をとり、四国大学付属幼稚園の研究顧問を務めたり、県内外の各地へ赴き「移動おもちゃ館」やワークショップ、講演を行ってきました。そうした多忙な勤務のなか、「子ども達が安心して遊べる場所を作りたい」と1996年（平成8年）、阿波市に個人で民家を購入し、「阿波手づくりおもちゃ館」をオープンさせました。

「ここにあるおもちゃは、ほとんど私の手作り。いろんな人が来て、いろんな遊び方をしてくれます」と井村さん。2階のプレイルームには木のおもちゃが所狭しと並んでおり、自由に遊ぶことができます。色とりどりのコマ、まるいフォルムの立体パズル、知恵の輪、音の出るおもちゃ、かわいい人形やドールハウス、からくりやびっくりの玉落とし……ひとつ



いむら ゆうぞう
井村 雄三さん

（昭和38年 学芸学部4年制小学校課程卒）

ひとつ表情が違うおもちゃ達は遊び方も無限大です。なかでも、椅子型積み木は子ども達に大人気！バランスをとりながらうまく組み合わせ、どんどん高く高く……自分の身長よりも高く、時には天井に届くまで積み上げることも！友達と協力し、考えを出し合いながら作っては壊し、作っては壊し、夢中になって遊ぶそうです。

1階には木を加工する工具や画材などを備えた工房があり、おもちゃ作りを楽しんだり、自分で持ち込んだ材料を加工することもできます。「これ、どうやって作ったかわかりますか？」と、おもちゃを手にしたずらっぽく笑う井村さん。おもちゃの構造を観察し、作り方を考えるのも、また楽しいもの。工具の正しい使い方を井村さんに教わり、ヒントやアドバイスをもらいながら、オリジナルのおもちゃを作っ



2階のプレイルーム



スギ、ヒノキ、ケヤキ、キリ、クスノキ……木の香りいっぱいの工房



二人がかりで回すジャンボこま。
奥様の洋子さんと力を合わせてエイッ！



全部木でできた「玉落とし」。カタコトと、
やわらかな音をたててボールが転がります



天井まで届くかな?!
椅子型積み木のタワー

てみましょう。うまくいなくても、考えること、想像すること、体験することが大切なのです。

おもちゃ館には、県内外からさまざまな人々が訪れます。幼稚園や小学校の遠足、保育士や教員の研修会にも人気です。四国大学の井村ゼミの学生が合宿をしたり、卒業生達が同窓会を開いたり、その子達が親や先生になって子どもを連れて訪れることもあります。

おもちゃ館オープンから30年余り。地域の人々や同級生・仲間の協力、そして公私ともにパートナーである奥様の洋子さんの支えもあり、忙しくも楽しく、あっという間の30年でした。「オープンの時には、地域の材木屋さんが4tトラック2台に木材

を積んで持ってきてくれた。その木材が残ってるから、まだまだ頑張らないとね(笑)」と井村さん。

「阿波手作りおもちゃ館」の開館は日曜日。場所が分かりにくいので、Webサイトであらかじめルート調べ、阿波市役所周辺で井村さんの携帯に問い合わせることをおすすめします。ちなみに、私(涓水会事務局)も若干迷いました。寄り道、周り道もまた楽し——(笑)。



ハイ、問題です。どうやって作ったのでしょうか？



立体パズル。木の香りや手ざわりが心地よい



information

● 阿波手作りおもちゃ館

771-1622 阿波市市場町興崎字北分228

☎088-641-0386(自宅) mobile 090-3460-9742

開館 >> 日曜日の10時～17時 ※来館前に電話で要確認

入館料 >> 無料(材料代実費)

URL >> <http://wwwi.netwave.or.jp/~omocha-1/index.htm>

Facebook >> <https://www.facebook.com/awa.omochakan>





特集

笑顔を生み出すひと

ボランティア活動のリーダーたち

「園瀬川の清流を守る会」の活動が あじさいロードをつくるまで

つゆ ぐち れい こ
露 口 玲 子

「園瀬川の清流を守る会」は園瀬川の堤防にあじさいを植える会です。この会の元ができたのは平成8年でした。園瀬川の水が地域の発展と共に汚れてきたので、昔のように美しい清流にしようとする環境問題を考える会でした。その年に文部省から「女性の社会参加支援特別推進事業」委嘱の要請があり、私たちは地域の環境問題をテーマにして解決しようと受諾しました。

当時は男女共同参画社会をつくるための事業や活動が盛んになりかけていた時代でした。

平成9年から、環境問題の解決に向けた事業を開始しました。住民に園瀬川に関心を持ってもらうために、堤防にあじさいを植樹することになりました。あじさいを植樹するためには、種々の活動が必要で、その一連の活動をするために「園瀬川の清流を守る会」と名付けました。会長には八万町内会連合会の会長がなり、私は事務局長を受け持ちました。

続いて平成10年度も文部省事業を受諾しました。テーマを変えたので、「園瀬川の清流を守る会」は文部省を離れて、地域のボランティア団体の一つになりました。

あじさいの挿し木は、文部省事業の中で平成9年から始めました。挿し木は、すべて「園瀬川の清流を守る会」の会員の手で、堤防に植樹できる大きさになるまで育てました。

平成14年に園瀬川の堤防に植樹しました。植樹までには多くの活動と人材が必要でしたので、地域の活動団体に協力を依頼して活動をしました。男女共同参画の社会づくり学習の経験が、それぞれの活動に生かされました。

あじさいの挿し木は5年間で約4000本育てました。堤防の土になじむためには、50センチの大きさが必要で5年間かかりました。5月に挿し木をしたので、真夏の太陽に耐えるために、寒冷紗をかけた



大輪の紫陽花が咲き誇るあじさいロード。（徳島市八万町沖須賀の園瀬川沿い）



町民150人が集まり、300本のあじさいを植樹しました

り、朝夕の灌水に工夫したり、苦勞が絶えませんでした。会員があじさいに愛着を持っていたので、一日2回の灌水ができたのでしょう。

大きく成長したあじさいを平成14年に植樹しました。会長が各町内会に案内したところ、150人が集まりました。

前日から会員が根巻した300本のあじさいを、園瀬川の堤防に植樹しました。雑草の生い茂る堤防が一日にして、あじさいの花畑に変わりました。植樹に参加した人たちも、その美しい風景に、園瀬川を見直したと思います。

園瀬川の堤防を地域住民に関心を持ってもらう初期の目的は果たせました。清流を取り戻し、雑草の生い茂る堤防は美しいあじさい畑に変わりました。毎年あじさいを300本ずつ植えていったので5年で1650本となり、「あじさいロード」と呼ばれるようになりました。

植樹した後も、灌水と除草が問題になりました。灌水は地域の団体や個人が協力してくれました。自分の井戸から水を提供してくれる人や、夏の期間の灌水を受け持ってくれる団体もありました。除草は農家の除草機で大きい草を刈り取るグループ、各町内からの人たちは、鎌で刈るグループの二つに分かれて、年間5回ずつ作業をしました。あじさいは



除草、灌水などの手入れをするボランティア

地域の住民に助けられて、堤防で成長しました。

14年の半ばに前会長が逝去し、私が後任を引き継ぎましたが、地域の人たちは同じように協力的で、灌水や除草には大勢のボランティアが参加しました。

地域の2小学校では「両親と子どもが園瀬川のあじさいの除草をする日」をつくり、植樹して間もない頃に、あじさいを守る後継者となる両親とその子どもたちに「園瀬川の清流を守る会」の趣旨を説明しつつ、草取りをしました。



人の背よりも大きく育ったあじさい

植樹してから約20年になります。私は2年前に会長を退任しましたが、あじさいの手入れには参加をして成長を楽しんでいます。

20年の間に、作業にかかるボランティアも世代交代しましたが、今も20年前と同じように除草には大勢の住民が集まって活動をしています。今後も後継者の育成と、組織や住民のボランティア精神を長く持ち続ける努力が必要です。あじさいロードとともに、園瀬川の清流がいつまでも人々の憩いの場として生き続けてほしいと願っています。

(昭和33年 学芸学部4年制中学校課程卒)



根元にはワラなどでマルチングを

ルーヴル美術館とホスピタルアート

総合科学部 社会総合科学科 国際教養コース 准教授 田中 佳

たなか けい



わたしは社会におけるアートの在り方に関心を持って研究活動を行なっております。大学院以来の研究テーマはルーヴル美術館の創設です。そして最近ホスピタルアートに関するプロジェクトにも着手しています。これらのテーマには大きな隔たりがあるようですが、今回は双方の研究成果を対象として総合科学優秀賞を授賞いただきました。これも総合科学部が築き上げてこられた総合的な視座と懐の深さゆえと感謝しております。

実はわたし自身も二つのテーマは別物とらえていたのですが、よく考えてみますと両者には通底するものがあります。それはともに社会におけるアートの新しい需要／受容の場であるということです。

世界で最も有名な美術館のひとつであるパリのルーヴル美術館は、1793年、フランス革命の最中に誕生します。これはフランス革命により民主化が達

成されたからでもなければ、ナポレオンが各国から美術品を持ち帰ったからでもありません。君主政の下、すでに50年ほど前から計画されていました。1747年にある愛好家が国王所有の絵画をルーヴル宮で公開することを提案したのが直接のきっかけですが、この提案は同宮で開催されていた王立絵画彫刻アカデミーの「サロン展」という展覧会に関する初めての批評に付随するものでした。つまり王宮で美術品を一般に公開する展覧会という場がすでに存在し、その出品作品への批評を出版するという状況が生まれたのです。一カ月ほどの会期であった革命前のサロン展には、述べ数万から十万人を超える来場者があったと試算されています。当時のパリの人口は五十数万人と言われています。もちろん地方や外国からの訪問者もいるでしょうが、これは驚くべき数字といえます。同時代人の描写には「パリ中の」



徳島市民病院階段アート（2019年制作）【写真：筆者撮影】

「さまざまな階級の」「あらゆる人」が訪れたといった記述が多く見られ、会場の様子を描いた図版などでもその様子は十分想像できます。少なくともパリでは18世紀半ば以降、美術は特権階級の専有物ではなくなりつつあったといえます。

とはいえ、作品を公開しさえすれば自動的に人が集まるわけでもありません。美術を見に来る人、見たい人というのは、長い時間をかけて社会における美術の在り方が少しずつ変化していくことによって、この時代によく増えてきたのです。美術館というものが世の中にまだ定着していない時代の美術館について研究するということは、まさにこの社会における美術の在り方の変化を研究することに他なりません。美術館を開設しようとする美術行政側の史料はもちろんのこと、展示作品に関する資料、展覧会に訪れた人の批評や日記、定期刊行物など、同時代資料を幅広く調査する必要があります。中でも作品に関する資料は、単純なようでいて最も注意

が必要なものです。作品のタイトルが現在のものと違っていたり、時には作者や寸法まで異なっていることもあり、現存の作品と照合する作業は意外に厄介で手間がかかります。

一方、ホスピタルアートのほうは、2018年に大学病院で学生と一緒にマスキングテープを使った階段アートを制作したのを機に、県内の複数の病院等に活動の場を広げるとともに、研究も進めつつあります。病院等にアートがあることで患者さんや職員の方々が院内の現実から一瞬でも気をそらすことができ、精神的あるいは身体的にもさまざまな効用を生むと考えられています。ヨーロッパでは1950年代から、日本でも2000年頃から導入が始まっていますが、まだ定着には至っていません。生活の中で「公」が担う部分が縮小する今日、準公的機関ともいえる病院でアートが果たす役割に注目し、この新しい需要／受容の在り方の進展を後世にも伝えていきたいと考えております。

コンサル人類学者大地に立つ： 世界農業遺産の認定や保全への文化人類学的関与

総合科学部 社会総合科学科 地域創生コース 准教授 ないとう なおき 内藤 直樹



私は令和3年6月に、世界農業遺産地域の文化、社会、環境的な特徴に関する文化人類学的な研究や、認定・保全に関するとりくみを評価していただき、第11回総合科学優秀賞をいただきました。もともと私は、マサイ族などの東アフリカの牧畜社会を対象にした文化人類学的研究をおこなってきました。具体的には私たち人類と環境との関わり方や価値観が、グローバリゼーションのなかでどのように変わりつつあるのかという点に関心を持っていました。ところが、徳島県のある行政職員の方との偶然の出会いをきっかけに、世界農業遺産に関連する研究や実践に取り組むことになりました。世界農業遺産（Globally Important Agricultural Heritage System：GIAHS）とは、国連の世界食糧農業機関（FAO）が人類の食料安全保障と生物多様性および文化多様性の保全に貢献する食料生産システムを人類全体の遺産として保全・共有することを目的に、2002年にスタートさせた制度です。つまり世界農業

遺産制度は地球環境問題や食糧問題などのグローバルな問題解決の手段です。他方で過疎・高齢化に悩む日本の地域社会は、世界農業遺産を観光客誘致や地域活性化にむけた手段として考える傾向にあります。その意味で世界農業遺産は、ローカルな問題解決の手段でもあります。今回は、文化人類学やアフリカ研究の専門家として徳島大学に着任した研究者が、地域の世界農業遺産申請に関わるに至ったキッカケについてご紹介します。

2011年秋に徳島大学総合科学部に着任した私は、県内でのフィールドワーク実習プログラムづくりをしていました。この時、徳島県西部市町村の行政職員のみなさんに、狩猟文化に関する調査協力をお願いする機会を得ました。この当時、農作物の鳥獣被害が社会問題になっていました。ですが、文化人類学はあくまで文化の側面からだけアプローチするのが当然だと考えていた当時の私は、狩猟文化という切り口を選びました。私は鳥獣害担当の行政職員の

みなさんの前で、人類史的にも重要で、現在も世界各地で営まれている重要な生業活動としての狩猟に関する人類学的研究の重要性について熱弁しました。いま考えれば当たり前ののですが、その後に連絡はありませんでした。このとき若き文化人類学者は、行政職員のみなさんが文化人類学の専門知自体を必要としてはいないということを学んだのでした。

ただ、後になって徳島県西部に位置するつるぎ町の職員から次のような内容のメールをいただきました。「鳥獣害担当職員からアフリカの狩猟や農業について研究している徳島大の教員が来たことを聞いた。いま、つるぎ町の農業を世界農業遺産に登録したいと考えている。アフリカ農業についての知見をもとにアドバイスが欲しい」。世界農業遺産について調べてみると、私が長年調査してきた東アフリカのマサイ系牧畜民も登録されています。また、出身大学院のアフリカ牧畜民研究者が、修士の時に四国の焼畑農業や雑穀生産についての研究をしていました。四国山地周辺は、焼畑農業や雑穀生産が日本でもっともよくおこなわれていた地域です。それゆえ私は、焼畑、雑穀栽培、傾斜地農耕に焦点をあてたストーリー案を、町職員さんにメールで送付しました。

しばらくして、町職員さんから「ぜひもっと話を

聞かせて欲しい」というお返事を受け取りました。その方は、自分が信じる道を突き進むという、いわゆる「変わり者」の行政職員でした。かくして鳥獣害対策の実務に関わる行政職員に対して狩猟文化研究の重要性を説いていた頭でっかちの文化人類学者は、この時から変わり者の行政職員とタッグを組んで、文化人類学の知識を社会実装するコンサルタントのような役割を演ずることになりました。

文化人類学者はちょっと気難しくて、だいたい変人ですが、「みなさんの企画がまだボンヤリしているとき」に話をしに行くと、案外ヒョウタンから駒のような解決に結びつくことがあるかも知れません。というのも文化人類学者は、主流の価値観以外のさまざまな価値観についての理解を深めることを得意としているからです。それゆえ少し前に注目された「デザイン思考」のような新たな発想法のなかでも、文化人類者は（エスノグラファー）として重要なポジションにいます。卒業生が社長を務めている日立製作所のような大きな企業では、商品開発部門に文化人類学者が雇用されるようになってきています。学問の位置づけや期待されている事柄も時代によって変わりつつあります。近年では、ビジネスや公務に文化人類学やエスノグラフィの技法が使われるようになってきています。ぜひ興味を持ってください。



世界農業遺産授賞式での講演（ローマのFAO本部、2018年）

パターン認知の心理をめぐって

輪郭線とは何か

徳島大学名誉教授 はま だ じ ろう 濱田 治良

イラスト: 尾田 理左 氏



物理学者・心理学者として活躍したE. マッハは1865年に人間が輪郭線を強調して見ていることを発見しました。すなわち彼は図1 (A) の白黒風車模様の円盤を高速回転させました。すると白と黒が平均化され、その光強度分布を(B)で説明すると円盤の中心 α から β までは白だけなので光強度は高く、 β からは黒が混じるので低下し、 γ からは更に黒が増すので急激に低下します。それに対する明るさ感覚を(C)に描くと、光強度の勾配が変化している角 β と γ に対応する β' と γ' に明るい筋(つまりマッハの^{かど}おび)が観察されました。また白色であるべき α' と β' の間は灰色がかり、 β' と γ' の間は外部に向かって僅かに暗いが殆ど一様な灰色でした。同様に、円盤の白黒を反転させた図1 (a) を高速回転させて光強度分布 (b) を発生させると、(c) の明るさ感覚になり今度は暗いマッハの帯 β' と γ' が見えました。

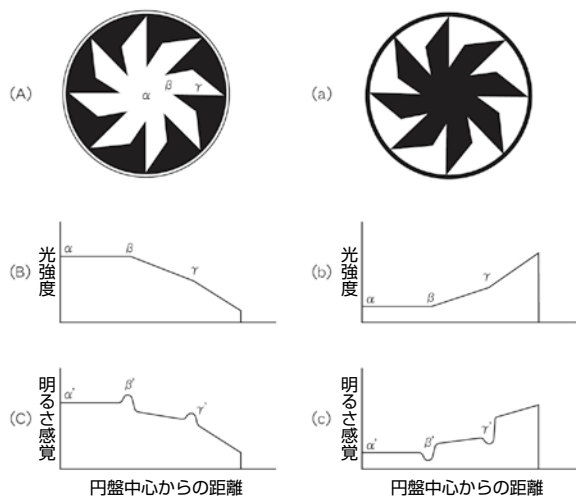


図1 明と暗のマッハの帯

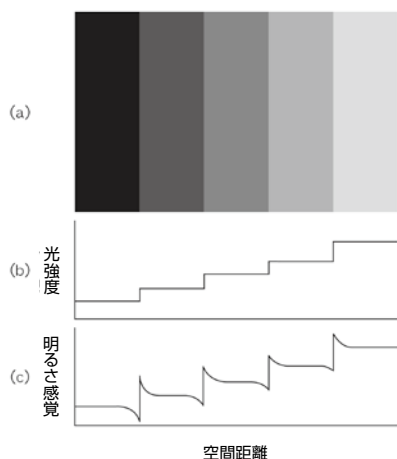


図2 ^{かど}角に現れているマッハの帯

これと同じ現象が図2 (a) にも現れています。つまり黒から白に至る5種類の短冊を描くと (b) にあるように光強度分布は5段階ですが、(c) のように4つの^{かど}角に客観的には存在しない暗と明の輪郭線(マッハの帯)が現れます。これをマッハの理論に従って図3で説明してみます。彼は図2 (b) にある4つの^{かど}角の光は目の角膜や水晶体を通

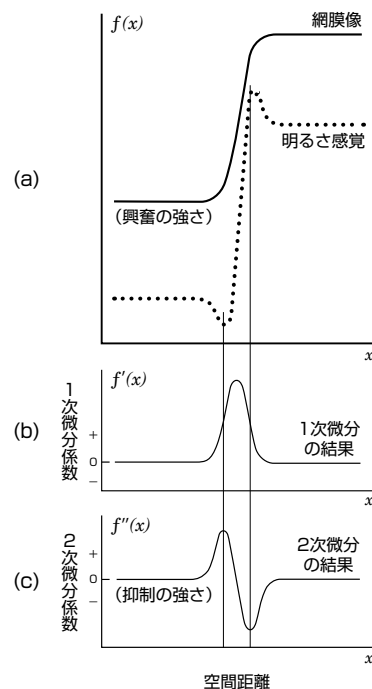


図3 マッハの帯の発生メカニズム

過するので、網膜上に写る像は図3 (a) の実線のようにボヤけていると考えました。しかし、この部分に逆に点線のような暗と明の鋭い輪郭線が見えるのです。ここで図3 (a) の実線を空間軸に対して微分すると (b) の1次微分係数が導かれ、さらにもう一度微分すると (c) の2次微分係数が導かれます。図3 (c) の最大値と最小値の位置は (a) の点線で描かれた暗と明の輪郭線の場所に一致します。そこで彼は (c) の曲線を「抑制の神経活動」の強さであると仮定しました。一方、網膜に当たる光がそのまま「興奮の神経活動」を引き起こすとしてしました。ここで曲線 (a) の実線の値から (c) の値を差し引くと、点線のように^{かど}角の部分に暗と明の輪郭線が現れるのです。このことから彼は2次微分係数の算出に相当することが網膜における神経回路で行われていると結論づけました。この理論は約100年後の1950年代になって神経生理学の発展に伴い米国のH. K. ハートラインらにより劇的に証明され、彼は1967年ノーベル医学・生理学賞を受賞したのです。このように私たちは心理学的輪郭線を数学的・生理学的に表現できる「視覚の法則」に従って見ているのです。

(昭和46年 教育学部小学校課程心理学教室卒)

彫刻を通じてドイツと交流

まつ なが
松 永

つとむ
勉



徳島とドイツの友好を象徴した私の彫刻作品が「Ewige Freundschaft」（永遠の友情）と題して、ドイツのハルデグセン市、市庁舎前に建てられた。ハルデグセン市は、ドイツ北部のハノーバーを州都とするニーダーザクセン州に属する市である。特急電車が停車するゲッチェン駅の都市郊外にあり、周囲を森や畑に囲まれた丘陵地帯の静かな所だ。旧市街地はドイツ独特の石畳の道や木組みの家並み、それら歴史的建造物が美しく残されている。そのハルデグセン市に今回の彫刻作品を設置するきっかけを作った知人のW氏が住んでいる。彼と私は20年来の付き合いがある。彼の奥様は徳島県人であり、夫婦とも獣医師で徳島とドイツを往来している。私は彼に招かれ、何度もこの町を訪れていた。今回のモニュメント設置はW氏夫妻のハルデグセン市と徳島県への働きかけで、その熱意と努力が実を結んだものである。

2020年3月10日、この時季のドイツの天候は毎日変化が大きく、小雨の中での設置作業が行われた。まず、梱包された荷物を倉庫から設置場所まで運び出し開梱することから始まった。前もって空輸していた作品は、ステンレス材と石を使っていて総重量が550kg余りある。日本からは遠路の移送のため作品の傷みがないか心配していたが、頑丈な梱包が幸いして無傷の状態で輸送ができていた。用意された重機を使って作業員による手際のよい組立作業が



設置された作品を見守る地元の市民

行われた。向きや位置を確認しながら、あらかじめ工事されていた基礎の上にうまく取り付けることができた。このように、野外彫刻は取り付け設置が無事終わるまでが制作過程の流れであると考え、いつもながら取付が完了する直前まで緊張の時間が続く。

除幕式とセレモニーが行われたのは翌々日の3月12日。この日は朝から素晴らしい晴天に恵まれた。除幕式では、多くの市民の方々に見守っていただいた。設置された作品の前で、市長さんから徳島とドイツの友好を意図したモニュメントと作者の私が紹介された。作品は、徳島県の県鳥（しらさぎ）とハルデグセン市のシンボル（ロバ）を対に抽象的な形で表現した。歴史を感じさせる市庁舎の前に据えられて、現代的息吹を感じさせながら違和感なく風景の中に馴染んだ姿となって、現地の人々に受け入れられているようだった。

同じ日、旧市街地の中心部に街のシンボルとして残されている築700年の重厚な古城のホールで、市主催の日独交流のパーティーが開かれた。丁度この時期ヨーロッパでは、新型コロナウイルスによる感染が出始めた頃だった。ドイツでも他国と同様に少しずつ感染例が出ていた。この町の周辺では全く問題がなかったが、用心のため、多くの参加者を予定していたパーティーは、人数を制限しての開催になった。地元アーティストの作品展示やパーティーへの参加、日本人による日本文化の紹介などを交えて



ハルデグセン市庁舎前に彫刻作品の取り付けの様子

お互いに楽しく交流し、熱気あふれる交流会であった。

彫刻を通じた交流のそもそもの発端は、遡ること1997年の出来事である。それは、ドイツ南部のニュールンベルク近くに住む彫刻家ペータークッセルさんが鳴門市制50周年の記念として、ベートーベンの全身像を鳴門のドイツ館前に建立した時の歓迎会に私も同席したことであった。その後もアート好きなW氏と私は、家族ぐるみでずっとお互いにお付き合いを続けていた。推察するに、W氏はドイツから徳島県の鳴門に彫刻作品が来たのであれば、徳島からドイツへ、それも自分の故郷のハルデクセン市に彫刻作品が交流の証として置かれても良いのではないかとこの気持ちがあったのだろう。幸に、ハルデクセン市が属するニーダーザクセン州は、2007年9月から徳島県と友好交流関係にある。そのことも大いに影響した。

私は、これまで何度か彫刻作品を外国に置く機会を持つことがあった。本来、旅好きであるため、単に旅を楽しむだけでなく作品を通じて現地と繋がりが出来ればと考えている。過去に作品を置いたアメリカやオーストラリアでの経験は、現地の人々との繋がりが交流が最も大きな喜びになっている。作品を置くことで、その土地が新しい自分の居場所になってくるような気分になる。縁があり、現地の懐かしい人々との再会も嬉しい。作品の経過を見るのも良い。各地に置いた作品は、時を経ても、繋がりを作ってくれる。その存在する姿が私にとって人生の大きな喜びになっている。今後も、作品を通じた国際的な活動が続けることが出来ればと夢を描いている。

(昭和46年 教育学部中学課程美術科卒)



作品を前にして、カイザー市長と私



取り付けが完成した作品「Ewige Freundschaft」

プロフィール

松永 勉

Tsutomu Matsunaga

行動美術協会会員 日本美術家連盟会員
徳島彫刻集団代表 徳島県美術家協会会長

- 1971 徳島大学教育学部卒業
- 1989 第6回ヘンリー・ムーア展彫刻の森美術館賞
- 1990 行動展安田火災財団奨励賞
- 1991 第7回ヘンリー・ムーア展秀作展出品
第4回ロダン大賞秀作展出品
- 1992 安田火災財団奨励賞展新作秀作展
'92 OUR 徳島彫刻大賞 大賞受賞
- 1996 在モロッコ日本大使館に「光と風の協奏」設置(モロッコ)
- 2002 日韓交流彫刻展へ「風景の再生」を招待出品(韓国)
- 2004 桜の森彫刻コンクール「風景のハーモニー」優秀賞(秋田県)
- 2005 中国丹東市美術館に作品寄贈(中国丹東市)
- 2011 サギノウ市美術館で個展(アメリカ)
- 2017~2019 オーストラリア野外彫刻展出品(シドニー、パース)
- 2020 彫刻文化を通じたドイツ・ニーダーザクセン州ハルデクセン市との交流事業(ドイツ)
- 2021 第13回とくしま芸術文化賞受賞
令和3年度徳島県表彰
第76回行動美術展 9月15日~27日 国立新美術館
第59回徳島彫刻集団野外彫刻展
10月3日~11月12日 徳島中央公園
上板町、石垣市 ゆかりのまちモニュメント設置
11月 石垣市
佐那河内村 顕彰碑建設

[連載⑧]

My Workplace

私の職場

総合科学部が創立されて早や30年余。
国内外を問わず多方面の職場で活躍されている
渭水会々員の皆様に、職場の状況や特色、体験談など、
その職場ならではのエピソードを語っていただきました。

カルチャー
スクール

やりたかったことが叶う場所

なが やま あい
永 山 愛



コロナ禍で自粛が続き、早や1年半が経とうとしています。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

私は、昭和23年から昭和51年まで私の祖父が校長として運営していた私立の高等学校「徳島高等学校」の校舎をリノベーションして、カルチャースクールを経営しております。祖父、そして父から譲り受けたこの校舎をどのように活用していくのは、楽しみでもあり、大きな悩みでもありました。祖父も祖母も父も母も、形は違えど、この場所で人に何かを教えることを仕事としていましたので、「学びの場」であり続けることは守っていこうと考えました。

そこで思いついたのが、この廃校跡を利用し、今までになかったようなカルチャースクールを作ろう、ということです。教える側も学ぶ側も「やりたかったことが叶う」ような学校が作りたい。私自身も好奇心旺盛なので、色々なことを学べたり体験できたりしたら、どんなに楽しいだろうと想像したのです。

この好奇心旺盛な性格は総合科学部で学ばせていただいたところに起因するのかもしれませんが。当時私は、芸術を専攻し、主に民族音楽を研究していましたが、専攻に

入る前に様々な分野に触れることができたことは、その後の私の人生にとって、とても有意義であったと思っています。カルチャースクールでは様々な分野の講座を取り揃えております。大学生のころに学んだ言わば知識のとっかかりの部分が、市民の皆様の興味や関心への探求へと繋がり、様々なジャンルに抵抗なく積極的に取り組むことができました。色々な学びが通じる瞬間ということにも気付きました。総合科学部で学ばせていただいたことは、人生を豊かにする上でも大切なことであったと思っています。

話を戻しますが、起業する上で最も苦心した事は講師を集める事です。学校を作る上で一番初めに決めた事は「何を習うかよりも誰に習うかを大切に」という事で、絶対にこだわりたい部分でもありました。

講師集めの方法についてよく聞かれるのですが、講師の先生方とはお一人お一人異なる出会い方をしています。今でこそスクールとしての実績がありますが、起業時は何の資料もないまま、まさに体当たりでお願いをして回っていききました。その時に私の話に耳を傾けてくださり、今でも講師を続けてくださっている先生方には本当に感謝しかありません。

そして、色々な失敗や経験をし、何とか軌道に乗ってきたと思っていた矢先のことです。2020年2月27日、コロナ感染拡大防止のために全国の学校が一斉休校となり、私の経営するエミールも「学校」の1つとの認識があったので、休校を余儀なくされました。奇しくもその日は私の40歳の誕生日。いつも賑やかな学校にポツンと残された気持ちになり、とても苦しい1日となってしまいました。

しかし、講師の先生方の協力のもと、オンライン受講に切り替えたり距離を取る工夫をしたりと、できる対策



201教室。当時のままの雰囲気を残す趣ある教室



1



2



3



4



5



6



7



8



9

1 2階の外廊下。各教室には用途を示したフラッグが掲げられています

2 3階は主にダンスやスポーツ教室などに使用される1フロアの講堂になっています

3 校舎外観。2014年にリノベーションいたしました

4 たくさんの方の学びの場となっています。こちらはワイン講座の様子

5 木工などを楽しめる工作室。木軸ペン作り教室などが人気

6 3階の講堂が結婚式場になることも。壇上にはパイプオルガンが

7 101教室はキッチンになっています。カフェイベントなども開催する事ができます

8 撮影スペースとしても人気のこちらのキッチンで様々なお料理教室が開かれています

9 リノベーションの際に出てきた当時の校旗。今も色鮮やかに残っています

は全て行なって行った結果、今では少しずつ生徒さんが戻ってきてくださるようになりました。その時に皆さんがおっしゃった事は「やっと帰ってくることができた」という言葉でした。「ただいま」とお声がけしてく下さる方や「ずっとみんなに会いたかった」という方もおられました。誰かにとって心穏やかに時を過ごせる居場所の1つになれるという事は、創業の理念からしてもとても意義のあることであり、幸せな職業、職場であると、コロナを通して学んだ気がしています。現在は、ダンス、ヨガ、ギター、お菓子作り、ワイン、工作など、お子様からご年配の方まで楽しめる約100の講座をご準備しております。

また旧校舎跡は、カルチャースクール事業の他に、イベントスペースとしての一面もあります。カフェイベントやマルシェのようなイベントを開催したり、撮影スペースとしてお貸ししたりなど、「こんなことをやってみたい」というお申し出にできるだけ添えるよう環境を整えています。そして、2022年よりフォトウェディング事業もスタートいたします。コロナの影響により結婚式を諦めざるを得なかった方に少しでも楽しんでいただけるよう、

ずっとと思い描いていた夢が叶うようにと、今も楽しく準備、企画中です。

創業以来、思えば大変だったことも多かったけれど、常に楽しみながら挑戦してきたように思います。それもこれもこの校舎があり、学生時代の学びがあったからこそなのです。譲り受けたこの学校で私の夢を叶えながら、1人でも多くの方の「やりたかったことが叶う場所」それが私の職場です。

徳島高等学校の校訓は「希望は高く 夢清らかに」。その精神を大切に、常に志を持ちながら、いつまでも学び続けていきたいと思っています。

(平成14年 総合科学部人間社会学科国際文化研究コース芸術専攻卒)

information

● エミール カルチャー&マルチスペース

徳島市庄町1丁目63

HP >> <https://emile.jp/>

Facebook >> <https://www.facebook.com/emilecul>

TEL >> 088-637-0241

誰も知らないことがわかる研究はおもしろい！ 「総合科学部だからこそ成層圏」へ！

総合科学部 社会総合科学科 地域創生コース 准教授 さはらおさむ 佐原理



こんにちは、総合科学部の佐原です。成層圏にiPhoneを気象観測用の気球で打ち上げて地球を撮影し、落下位してきたiPhoneを海洋上で回収をするというトンデモな研究を始めてもうすぐ10年になります。また、最近では成層圏に微生物を打ち上げています。みなさんは成層圏にも生物がいると聞くと驚かれるかもしれませんが。私も初めて聞いた時はとても驚きました。それは、2020年1月に当時京都大学に所属していた若手の研究者から話があり、「成層圏にも微生物が存在し、しかも長期間浮遊をして生命進化に大きく影響していそうだから調べたい」と共同研究を依頼されたことに始まります¹。Negative photophoresis（逆光泳動）²という現象によって成層圏でも光源に向かって微生物を上昇させる力

があり、微生物は80kmの高度でも実際に採集されています³⁴⁵⁶。こんな宇宙手前の空間にも微生物は存在しているのです。微生物は大変面白く、我々人類のように一定の地域に集団が居住し、地域ごとに異なる種で生息しています⁷。その一方で少数だけでも大陸間移動をするような微生物も存在し、微生物集団やその他の生命に急速な進化を促している可能性があるという構想があります⁸。こうした新しい生命科学の発想が大変ユニークで面白いなということで、成層圏へ微生物を運ぶことを設計しここ2年ぐらい運用しています。そこで思いついたのがビール酵母を打ち上げること。実は昔から酵母菌が変性をするということはよく知られていて、最近ではLEDの紫外線によって日本酒に使用する酵母を



25000mの成層圏に到達したビール酵母

生成している研究もあります⁹。そこで、これは成層圏に上がれば酵母菌も変性し、それが明確になっていけば生命科学としても地域振興のデザイン手法としても面白いのではないかと着想しました。研究の面からも成層圏環境で起こりうる自然現象・生命現象を明らかにしていく大きな一歩だと思います。

2020年に成層圏から帰還した酵母とそうでないお留守番酵母で試験的にビールをKAMIYAMA BEERで醸造しています。私も昨年飲んでいますが確かに、香気成分に違いがあることを認めます。また、複数名でブラインドテスト（2本のお留守番酵母によるビールと1本の成層圏帰還酵母ビールを飲み比べて味が違うものを当てる）をしても確かに味の違いを指摘できるくらい香気成分が変化をしていました。同様にConeruという会社で成層圏パンも作成していますが、こちらでは明確に成層圏から帰還した酵母の発酵力に違いが出ているようです¹⁰。KAMIYAMA BEERではこの秋に成層圏から帰還した酵母で醸造したビールの販売を予定しています。

よくわかったのは、生命の多様性は成層圏にまで広がり、我々の住む地球はまだ多くの謎に包まれているということです。微生物が成層圏でどのように生息しているのか、生命はどの範囲まで生息可能なのか、また近年強度の紫外線や宇宙線に耐性の

ある微生物も見つかっており、実際に生命が存在しうる範囲は、これまで考えられている領域よりもかなり広いのではないかとわかってきました。私は打ち上げの専門で芸術やデザインを主としているわけですが、科学も芸術も共通に探求する点は1つで「我々は何者なのか？」ということです。もしかしたら他の惑星の大気中に微生物がいるかもしれませんし、発見された微生物が人類の他惑星進出の大きな鍵になったり、パンスヘルミア説などの生命進化の謎を解き明かす鍵になるかもしれません。私たちの研究もそういった発見につながっていくことを期待しています。また、こうした研究やプロジェクトはまさに「総合科学」ですね。活動を通してビールを飲みながら宇宙や生命進化について語ったり、私たちの未来を夢見るような機会を提供したいと考えています。



打ち上げ直後の様子：航路をシミュレータで計算し安全に配慮



成層圏ビール
「25241M」

清水会々報第50号記念
読者プレゼント（→P53）

- 1 三木健司 他. 「小型バルーンを用いた微生物に対する成層圏環境の影響評価実験」, 宇宙航空研究開発機構リポジトリ. https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKewie6brzr_yAhVjlqYKH3kD8kQFnoECAIQAAQ&url=https%3A%2F%2Fjaxa.repo.nii.ac.jp%2F%3Faction%3Drepository_action_common_download%26item_id%3D47145%26item_no%3D1%26attribute_id%3D31%26file_no%3D1&usg=AOvVaw20zeTq1oWTrDLeyAH7K9m0
- 2 吉川研一, 「光泳動」 京都大学理学研究科物理学分野. <http://www.chem.scphys.kyoto-u.ac.jp/nonnonWWW/watanabe/studies/photophoresis/index.html>
- 3 Meier, F. C.: Collecting micro-organisms from the Arctic atmosphere. With field notes and material by Charles A. Lindberg, The Scientific Monthly, 40, 5-20, 1935. 10779
- 4 Rogers, L. A. and Meier, F. C.: The collection of micro-organisms above 36 000 feet, National Geographic Society, Technical Papers, 146-151, 1936.
- 5 Timmons, D., Fulton, J., and Mitchell, R.: Microorganisms of the upper atmosphere I. Instrumentation for isokinetic air sampling at altitude, Appl. Environ. Microb., 14, 229-231, 1966.
- 6 Imshenetsky, A., Lysenko, S., and Kazakov, G.: Upper boundary of the biosphere, Appl. Environ. Microb., 35, 1-5, 1978.
- 7 産総研, 「さがせ、菌の『お国自慢』 いま地産微生物が熱い!」 https://www.aist.go.jp/aist_j/aistinfo/bluebacks/no5/index.html
- 8 京都大学宇宙総合学研究所ユニットNEWS 「生命進化と空飛ぶウイルス 宇宙の渚で遊んだら・・・?」 http://www.usss.kyoto-u.ac.jp/wp-content/uploads/2021/03/usss-news_201712.pdf
- 9 徳島工業技術センター, 「LED酵母」 https://www.itc.pref.tokushima.jp/01_service/info_160329LED.shtm
- 10 Coneru 「成層圏パンの開発」 https://note.com/coneru_nazoko/n/n20c4192eda8e



徳島大学発ベンチャー

1998年、スタンフォード大学の博士課程に在籍していたラリー・ページとセルゲイ・ブリンがGoogleを創業しました。のちに世界を変える技術となるGoogleの検索エンジンの中心的技術「ページランク」の基となる技術は、ラリー・ページが在学中に発案し、大学がさまざまな形で支援を行ったことで生み出されたそうです。

「大学発ベンチャー」とは、大学の教官、学生、または公的試験研究所の研究成果を使って事業化・創業を行う事業主体のこと。2020年5月、全国的に話題になった「コオロギせんべい」は徳島大学発ベンチャーです。今後ますます注目が集まるであろう徳島大学発ベンチャーの現状と取り組みを紹介します。

徳島大学発ベンチャーの活動について

大学における革新的な研究成果を実用化する担い手として大学発ベンチャーが期待されている。図1は1995年度から2020年度までの大学発ベンチャー企業数を示している。経済産業省（2021）によると、

2020年度の調査において、大学発ベンチャーとして確認できた数は2,905社であり、2019年度調査で確認された2,566社から339社増加し、過去最高の企業数と伸びを記録している。

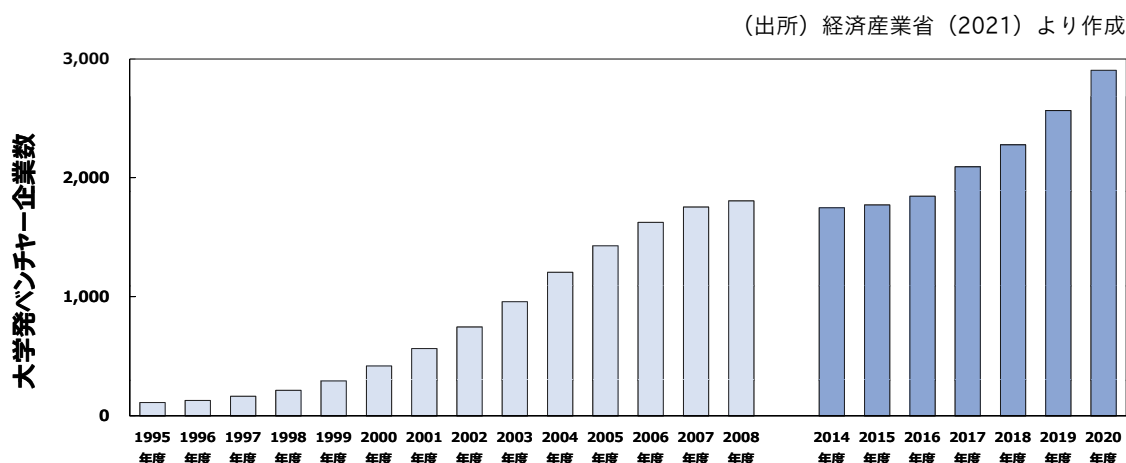


図1 大学発ベンチャー企業数の年度別推移

同調査では、大学発ベンチャーの分類として、研究成果ベンチャー、共同研究ベンチャー、技術移転ベンチャー、学生ベンチャー、関連ベンチャーの5つに分類している。図2は2020年度調査において、大学発ベンチャーとして確認できた2,905社に対する5つの分類別の構成割合を示している。構成割合は順に、56.3%、6.7%、2.6%、22.2%、11.6%となっており（その他（無回答）0.6%）、研究成果ベンチャーの割合が1番多く、次に学生ベンチャーの割合が多くなっている。

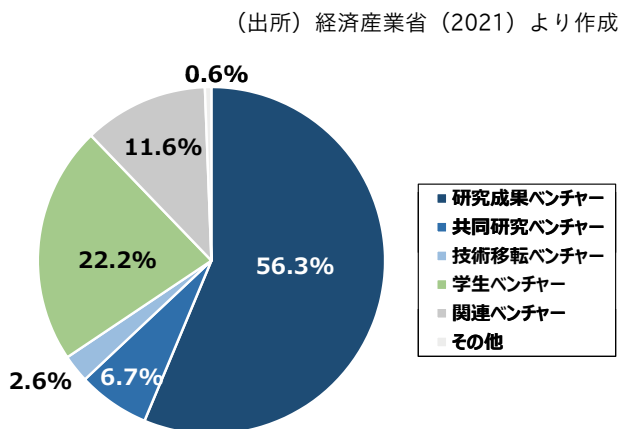


図2 大学発ベンチャー企業の分類別の構成割合

徳島大学は大学発ベンチャーの設立・育成の支援に力を入れており、多くの徳島大学発ベンチャーが存在し、活動している。徳島大学による支援の一環として、2016年11月に大学発ベンチャーの認定規則を制定している。徳島大学発認定ベンチャーを表1

に示す。2021年9月現在の徳島大学発認定ベンチャー数は27社である。

本特集では、徳島大学発認定ベンチャーである、**DataOASIS株式会社とAcademistry株式会社、株式会社KAI**の活動を紹介する。

表1 徳島大学発認定ベンチャー一覧

No.	企業名	認定年月日	大学関係者	主な製品・サービス
1	ナイトライド・セミコンダクター株式会社	2016年12月20日	理工学研究部 酒井士郎	窒素化合物半導体の製造販売
2	株式会社MMラボ	2016年12月20日	理工学研究部 三輪昌史	マルチコプター・ドローン等の研究・開発・販売
3	株式会社イフリ	2016年12月20日	医歯薬学研究部(栄養) 阪上浩、堤理恵	健康補助食品、特定保健用食品、栄養機能食品の研究開発・製造・販売
4	小胞体ストレス研究所株式会社	2017年1月26日	先端酵素学研究所 親泊政一	癌の予防診断マーカー、治療薬の研究開発・製造・販売
5	株式会社医用科学研究所	2017年2月21日	理工学研究部 仁木登、河田佳樹	医用画像処理システム及び医用情報システムの研究開発・製造・販売
6	応用酵素医学研究所株式会社	2017年2月21日	先端酵素学研究所 木戸博、千田淳司	生体成分及び微生物成分に関連する医薬品等の研究開発・製造・販売
7	株式会社徳島分子病理研究所	2017年2月21日	元ヘルス・イノベーション研究部 泉啓介	病理組織検査及び細胞検査の受託、研究支援サービス
8	株式会社言語理解研究所	2017年2月21日	元ソフトウェア研究部 青江順一 理工学研究部 泓田正雄	言語理解機能ソフトウェアの研究開発・製造・販売
9	徳島メディカルゴーイング株式会社	2017年2月21日	医歯薬学研究部(医) 岡久穂也	医療機器・ヘルスケア製品の研究開発・製造・販売
10	合同会社S P M研究所	2017年2月21日	元ソフトウェア研究部 田中均	新規化合物群の研究開発及び実用化
11	株式会社大学シーズ研究所	2017年2月21日	先端酵素学研究所 沢津橋俊	大学の保有する技術・特許等のシーズを利用した商品化・製造・販売
12	株式会社セツロテック	2017年2月22日	先端酵素学研究所 竹本龍也、沢津橋俊	ゲノム編集動物の作成及び解析、ゲノム編集受託
13	メカノジェニック株式会社	2017年5月16日	病院 船木真理	生物学・医療・医薬に関する研究・技術開発及びコンサルティング
14	SHED Tech株式会社	2017年10月2日	医歯薬学研究部(歯) 山本朗仁	幹細胞培養業務、幹細胞培養上清製造販売、再生医療に関するコンサルティング
15	株式会社Smart Laser & Plasma Systems	2018年2月26日	社会産業理工学研究部(理工) 出口祥啓 神本崇博	先端レーザー・プラズマ技術を用いた計測関連研究業務、設計、製造販売
16	株式会社リバーセイジ・ユーラボ	2018年10月1日	社会産業理工学研究部(生物) 宇都義浩	藍関連製品・健康食品・栄養補助食品・化粧品の研究開発、加工、製造、販売及び輸出入
17	合同会社UNIYOGA	2019年3月22日	工学部化学応用工学 中山裕基	医薬品、医薬部外品、健康食品、衛生用品、化粧品の企画、開発、製造、販売及び輸出入、アプリケーションの企画、開発及び販売
18	株式会社グリラス	2019年9月17日	社会産業理工学研究部(生物) 三戸太郎、渡邉崇人	食用昆虫の養殖及び販売、食用昆虫の育種・販売ほか
19	株式会社KAI	2019年11月18日	理工学部社会基盤工学部学生 毛笠龍之介 総合科学部心身健康コース 学部学生 前田晏星 元高等教育研究センター学修支援部門 創新教育推進班産業院 油井毅	給餌装置および給餌システムの開発・販売、動物用遊具・運動促進システムの開発・販売、その他動物のケア等製品の開発・販売
20	有限責任事業組合徳島藻類研究所	2020年2月18日	徳島大学産業院 内藤修身 社会産業理工学研究部(生物) 岡直宏、唐昭紀	スジアオノリを始めとする海藻類の養殖・加工・販売、スジアオノリを始めとする海藻類の種苗生産・販売ほか
21	株式会社産学連携キャピタル	2020年3月17日	教養教育院イノベーション教育分野 北岡和義	投資事業有限責任組合への出資、投資事業有限責任組合財産の運営・管理ほか
22	DataOASIS株式会社	2020年6月16日	事務局総務部同窓生・基金室 橋川太 大学院社会産業理工学研究部 石田基広 情報センター 谷岡広樹 高等教育研究センター 関陽介 学長補佐 高石喜久	コンピュータシステムの導入・運用及びそれらのコンサルティング、情報処理システムの企画・設計・開発及びそれらのコンサルティング、コンピュータソフトウェアの企画・開発・制作及び販売、インターネットを利用した情報提供サービス及び情報処理サービス、ITに関する研修・セミナー及び講演会の企画・運営及び実施
23	Nano T-Sailing合同会社	2020年7月1日	医歯薬学研究部(薬学) 安藤英紀、石田竜弘、清水太郎	培養基材の加工・製造・販売、抗体の製造受託、ペプチドおよびその誘導体の合成・販売、リボソーム関連受託
24	株式会社シトリアン	2020年7月21日	医歯薬学研究部(医学) 堤理恵	ゆごうを中心とした県産農作物の機能性を活かした飴やジュースなどの製造・販売、ゆごうの濃縮果汁・果皮粉末等の販売、商品開発コンサルタント業務(原料や食品の機能性に関する調査)
25	株式会社SpLED	2021年1月25日	ポストLEDフォトニクス研究所 松岡薫、越智雄雄、安井武史	Gap投資(研究開発・事業化推進)、受託評価サービス、光発生・計測装置等の開発・販売ほか
26	株式会社MILAI Technologies	2021年4月20日	先端技術科学教育部大学院生 鳥井 浩平	画像、映像、音楽、テキスト等の各種メディアに対する高速検索技術と人工知能技術に基づいたIT製品の研究開発・製品化
27	株式会社Academistry	2021年8月18日	社会産業理工学研究部(社会) 石田基弘	人工知能(AI)・データサイエンス・データ分析並びに機械学習に関するインターネットを活用したプラットフォーム開発及びその使用許諾ほか

(出所) 徳島大学HPより作成

○参考文献・URL

株式会社野村総合研究所(委託元:経済産業省)(2021) 令和2年度産業技術調査事業(大学発ベンチャー調査) 調査報告書 徳島大学のHP, <https://www.tokushima-u.ac.jp/ccr/inside/tokudai-venture-seido.html>, 2021年7月31日アクセス

AIの新しい可能性 ～AIで文書に魂を吹き込む～

総合科学部 教授
大学院 社会産業理工学研究部 (社会総合科学域) 教授
徳島大学デザイン型AI教育研究センター

いしだ もとひろ
石田 基広



私は現在、DataOASIS株式会社と、Academistry株式会社の2社で代表取締役を務めています。いずれも、徳島大学発ベンチャーとして認定いただいています。ここではこの2社について、ご紹介させていただければと思います。

DataOASIS株式会社は、2020年6月に設立いたしました。この会社には、私のほか、徳島大学工学部と高等教育センターからそれぞれ1名の教員が取締役として参加されています。DataOASIS株式会社は、いわゆるAIベンチャーです。私を含め3名の教員がこれまで培ってきた研究業績をもとに新しい技術を開発し、これらを世に出すことを目標にしています。取締役である教員3名の研究分野はいわゆる自然言語処理であるため、現在、開発を進めているプロダクトも、この分野の最新技術を応用したものです。

自然言語処理は、人間の発する言葉をコンピューターで処理する分野です。例えば、企業や自治体、また学校などには業務に関連する大量の文章が蓄積されているはずです。こうした文書からは、既存の業務のノウハウが得られるだけでなく、業務改善のヒント、あるいは新規業務のニーズが埋まっている

かもしれません。会社あるいは団体にとっては宝の山ともなりうる資料です。しかしながら、蓄積された文書を読んで何かを得るというのは、人間にとっては非常に時間と手間のかかる仕事です。そのため、こうした文書はバインダーに綴じられ、暗い倉庫に眠ったままになっているケースが非常に多いと思われます。

DataOASIS株式会社では、こうした文書たちにAIで魂を吹き込み、文書どうしに語らせることで、企業や自治体の業務を改善し、新しい事業のシーズを育てるシステムの構築を検討しています。あるバインダーに綴じられている文書を、別の倉庫の別のバインダーに綴じられている書たちと突き合わせることで、業務の盲点や展望が浮かび上がってくることも期待できます。これを我々は「文書どうしに語らせる」と表現しています。さらには、個々の企業や団体ごとに蓄積された文章からAIで汲み取った知を重ね合わせることで、社会全体の知として共有し、さらには新しい知の方向を定めるパイロットとしての役割を果たすこと、それがDataOASIS株式会社の使命だと考えています。

一方、株式会社Academistryは、東京のAIベンチャー企業に所属する2名の研究開発者と私とで2021年8月に設立いたしました。Academistryは、いわゆるマッチングをサービスとして提供する会社です。コロナ禍にあって、さまざまな業務をDX/AI化する動きが加速しています。しかしながら、日本のみならず世界的にAI技術者は不足しており、大企業ならいざ知らず、中小企業や自治体がAI技術者を必要なだけ抱えるのは非常に困難です。とはいえ、規模あるいは業務形態がどうであれ、今後、DX/AI化は避けられません。そこでAcademistryは、技術開発や業務改善のためのDX/AI導入を個々の組織の枠組みを超えた社会的課題ととらえ、技術や知識を共有できる開放型のコミュニティの構築を行います。中小企業に一人だけ採用されたAI業務担当者が孤独な業務に潰されることなく、



石田基広教授のデータサイエンス・AI関連の著訳書

他組織の技術者の助言を気楽に受けることができる、あるいは逆に自身が他社の責任者に支援を行える、そのようなコミュニティの実現を目指すのがAcademistryです。

多くの企業、自治体にとって、DX/AI化は前例

のない未知の業務だと思われます。とはいえ、この方向はもはや避けて通れません。どこから着手すればよいのか検討がつかないとお悩みであれば、お話を伺います。お気軽にご連絡をください。

✉ m.ishida@dataoasis.jp

動物に質の良い暮らしを届けるために

総合科学部総合科学科 地域創生コース4年
まえだ あんり
前田 晏里

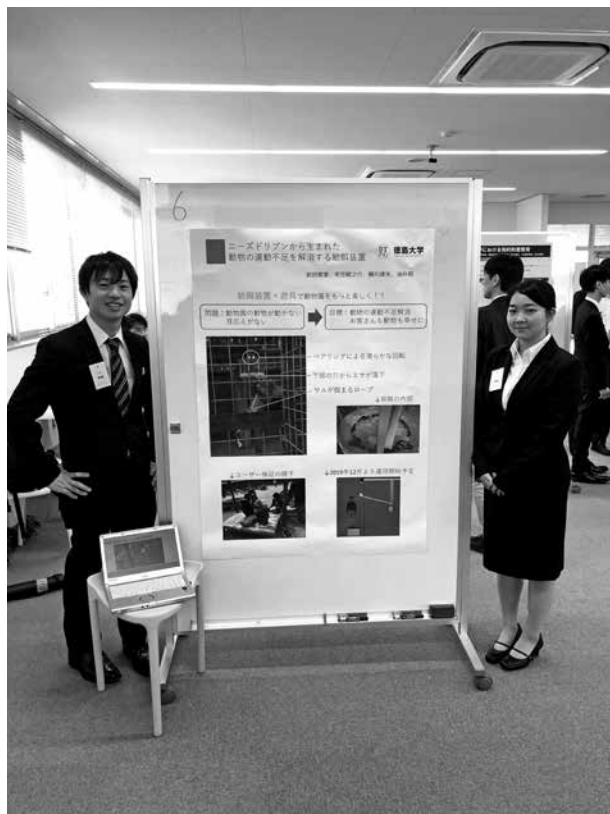


起業。自分の人生にこんな出来事があるとは思っていませんでした。

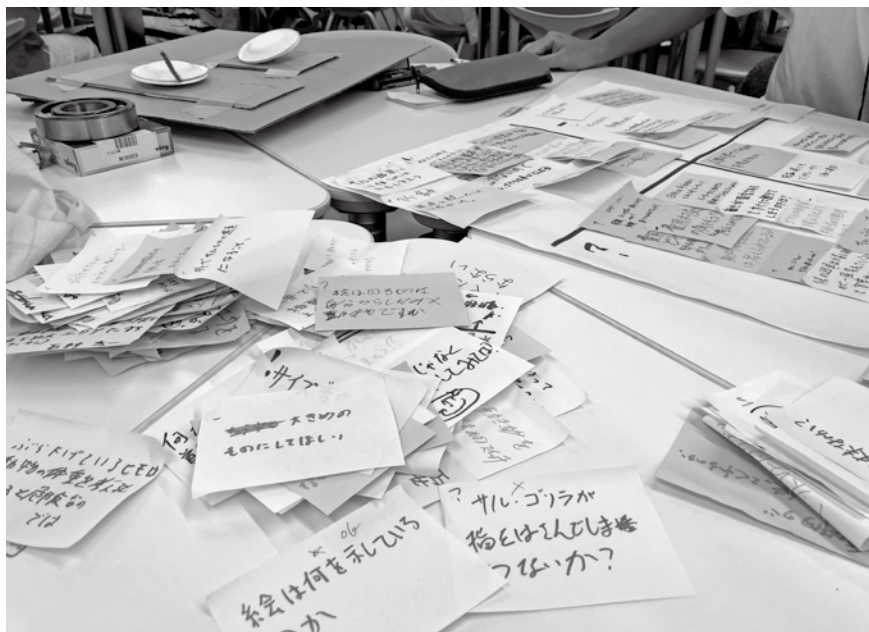
私は現在、徳島大学発ベンチャーである株式会社KAI（以下KAI）において取締役を務めています。KAIはイノベーションチャレンジクラブ（以下イノチャレ）という活動がきっかけで生まれました。これは企業から実際の課題を頂き、学生がデザイン思考のプロセスを踏みながらアイデアを創出するプログラムで、ジェイテクトから「ベアリングの新しい使い方を考える」という課題を頂いたことが始まりでした。そして私たちが考えたアイデアはkuru・kuruというサル向けの給餌機でした。これは普通の給餌機とは違い、サルがロープを回すことでエサが落ちてくる仕組みになっており、活発に動く姿を見ることができます。アイデアの発端は、動物園で調査を行った際に、動物が動いておらず見ごたえがないこと、動物の運動不足が深刻な問題となっていることでした。試作品を持ち込み話をさせていただいたことがきっかけで、現在kuru・kuruは香川県しとり動物園において稼働中です。またkuru・kuru以外にも事業展開を考えており、構想を練っています。

もともと自分が起業するなど思っていなかったのですが、イノチャレで給餌機の開発を行い、より広めていきたいと考えたタイミングで起業の話が出てきました。もちろん不安な気持ちはありましたが、それ以上に挑戦したい、必ず自分の財産になる、という思いが強く起業を決めました。弊社は社長を徳島大学理工学部毛笠龍之介が務めており、学生が社長を務めるのは、徳島大学創立後初となります。

動物園の実態を肌で感じた私たちは、経営理念を「動物に質の良い暮らしを」と決めました。会社を始めて、世の中の製品やサービスはどのように回っているのか、どのようなニーズから生まれたのか、自分事に捉えるようになりました。意外な着眼点を発見したり、どのように取り込むことができるか、を考えるようになりました。これまでは受け手側だったものが、どうユーザーにアプローチを行うかという立場に変わり、悩むこともありますが新しいものを創っていくという高揚感が強いです。



教育学会での発表。起業やkuru・kuruの話を発表



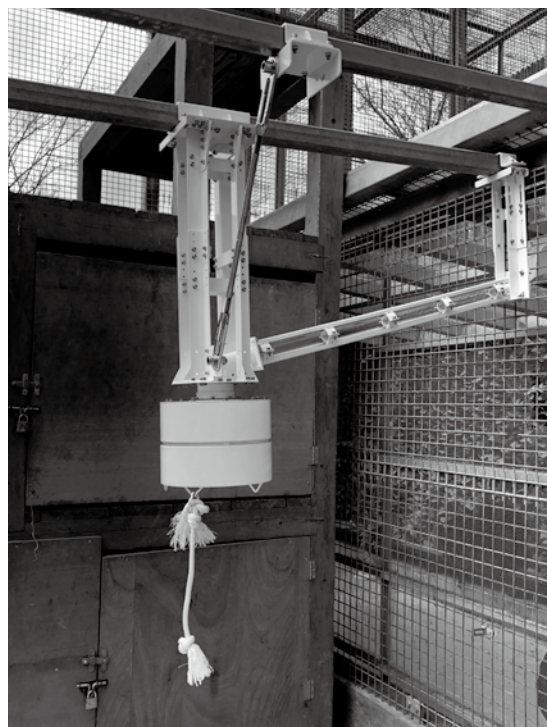
イノチャレでのアイデア出しの様子。大量に書き出し、アイデアを点数化しまとめていく

また積極的に挑戦してみることで変わってくるものがあると感じています。私たちも当初は「新しい給餌機をつくりたい!」という勢いが強く、深い知識はなかったのですが、面白いと感じてくれた方が協力してくださり今があると思っています。自分たちの考えたものが議論され、形となって完成してゆくを見て、とても感慨深い、わくわくする気持ちになったことを覚えています。こんな風に自分の人生にどれだけ伏線を張ることができるか、というのは後々思わぬところでつながりができたり、助けとなるのではないかと考えています。初めから完璧というものはないと思いますし、自分以外の視点からの意見をもらうことで新たな着眼点が見えてくることもあると感じます。

さらに、その挑戦の中で自分の得手不得手や、楽しいことを見つけられるのではと感じています。経験したことがある、と、経験したことがない、のでは大きく異なると思うので、これからも気になることに踏みこんでみる姿勢は続けたいと感じています。

卒業後は大学院に進学し、会社を続けながら、スケールするために経営やマーケティングを学びたい

と考えています。ニッチ市場^{しじょう}と言われる動物園を新しい視点で切り取り、いかに多くの人に広め、生活の近くに置いてもらえるのか。まだまだ試行は続きますが、多くの人に、動物に、良いものを届けられるよう精進していきます。



kuru・kuru。しろとり動物園で稼働中。設置も行った

❖ 渾水会々報第50号記念 読者プレゼント (→P53) で、徳島大学発ベンチャーのひとつ「株式会社グリラス」の製品をゲットしよう!



笠井文夫さんについての情報を お寄せください

7月のある日、「明治時代に徳島県師範学校を卒業した笠井文夫という方についてお伺いしたい」と、徳島県立博物館からメールがありました。なんでも明治期の植物学者で、当時県内では有力な植物学者として活動された方だとか。笠井氏による植物標本が北海道釧路市で多数見つかり、今年1月に朝日新聞に大きく取り上げられたこと、笠井氏について調査を始めたことなどをお伺いしました。調査が進んだら、徳島県立博物館で笠井氏の足跡をまとめた企画展ができれば……という展望も。

笠井文夫さんは明治37年に徳島師範学校師範科を卒業されています。師範学校に入る前、また卒業後どのような足跡をたどって北海道に行ったのか……。

些細な情報でもかまいません。ご存じの方は事務局まで情報をお寄せください。

剣山での牧野富太郎と笠井文夫： 笠井文夫とは誰なのか？

徳島県立博物館上席学芸員（植物担当） 茨木 靖
徳島県立博物館ボランティア 久米 啓介

この記事の発端は、徳島県立博物館に宛てられた北海道からの一通のメールでした。釧路博物館発のメールには、「当館収蔵の植物標本の中から採集地が阿波国であると記載された標本が見つかった、作成者の笠井文夫氏について照会したい」とありました。

私たちが調べると、明治42年8月に徳島県主催で牧野富太郎氏を講師として「剣山植物講習会」が開催され、ここで用いられた「剣山植物目録」の製作者が笠井氏であることが分かりました。この講習会の記録と植物目録の現物も確認できました。西日本各地から159名の参加者を迎え、黎明期の植物学界の熱気が伺われます。

ところが残念ながら笠井氏については、具体的な人物像が立ち現れてこないのです。私たちが確認できたのは、明治23年度に西麻植尋常小学校（4年制）を卒業したこと、37年3月に徳島師範学校の師範科を卒業したことくらいです。師範学校卒業生名簿の昭和17年12月版には、前年まで空欄だった住所欄に「東京府」の記載があります。

多数の新種発見が期待されたこの「剣山植物講習会」は牧野氏にとってもすばらしい体験でした。山頂での採集日には午前4時に出発、最初こそ説明を加えながら登っていましたが、すぐ採集に夢中になり、山頂に着いた時には牧野氏他一行数名は講習会の本隊から大きく遅れ、日没後は「手で道を探り、腹ばいになって道を下った」と報告されています。この後一行は、彼らの遭難を心配し松明をかかげホラ貝を鳴らしながらの搜索隊と遭遇し、無事下山しました。時に夜10時、雨天にならなかったのは幸い

でした。

この時の一行の中に笠井文夫もいたのでは？というのは、仮説のひとつです。笠井氏はこの講習会で大きな役割を果たしました。目録を作成して役員として参加し、全体の植物世話掛として事実上の副講師としての責任を果たしたと報告されています。

しかし一方では、副講師としての責任を担った笠井氏は、本隊を率いて適切な説明を加えながら、予定の時刻には無事に宿舎まで帰還していたと考えるのが妥当でしょうね。

ところで、この講習会が行われた明治42年とはどのような時代だったのでしょうか？

笠井氏の標本が見つかった釧路では、この前年に啄木が新聞記者として働いていました。この年には東京朝日新聞の校正係に転じ、帝大教授を辞して朝日に入社した漱石の連載小説「それから」を担当していました。また陸軍軍医総監である鷗外がエリス



渭水会に笠井氏について調査に訪れた
久米啓介さん（左）と茨木靖学芸員

情報はこちらまで //

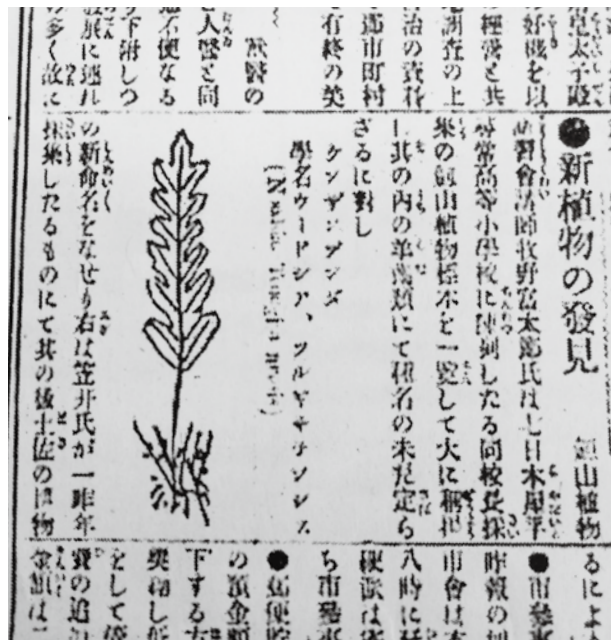
【渭水会事務局】 〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1番地 徳島大学総合科学部内
TEL 088-656-7293 FAX 088-679-8485 E-mail info@isuikai.jp

事件の「舞姫」の後日譚とでもいうべき「普請中」という小説を書いた年でもありました。この時代は日本社会も文学（日本語自体）も、そして植物学もまだ普請中だったのです。

この近代日本普請中の時代に、徳島の剣山で牧野富太郎と行動をとともにした徳島師範学校卒業生の笠

井文夫とはどういう人物だったのでしょうか？徳島県立博物館では笠井氏の里帰り展覧会を企画し、渭水会事務局のご厚意により笠井氏に関する情報を広く募っています。些細な情報であっても、何かご存知の方はぜひご一報をお願いいたします。

笠井文夫によって採集されたケンザンデンダの標本（釧路市立博物館蔵、加藤ゆき恵氏撮影）



明治四拾貳年八月十一日

徳島毎日新聞 第参千参百五拾貳号

剣山植物講習会（記事概説）

明治42年8月11日付徳島毎日新聞（現在の徳島新聞の前身の一つ）掲載の、徳島県教育会が主催し、牧野富太郎が講師を勤めた「剣山植物講習会」についての記事です。

講習会当日の7日午前4時に徳島に着いた牧野講師は、そのまま徳島駅5時発の列車に乗りし、6時16分に湯立駅（注：現在の徳島線山川駅、当時はここが終着駅でした）に到着、休憩所で湯茶の接待を受けた後、牧野講師は駕籠で、他の参加者は徒歩で会場に向かいました。午後4時には木屋平尋常小学校で笠井校長が採集した植物標本を見学し、また、途中で植物採集を行いながら午後7時に会場・宿舎である龍光寺に到着しました。

講習会には徳島県内の中学校生・師範学校生の他、香川・三重・岡山等よりも参加者があり、会場での追加参加者を含めて総人数は159名に達したと記事は伝えています。参加者は11の班に分かれ、笠井校長は第10班の植物世話掛（班長の次席）を担当しています。

新植物の発見（記事概説）

笠井校長が採集した植物標本を検討した牧野講師は、その中に新種のシダを発見し、「ケンザンデンダ」と命名しました。このシダは2年前の笠井校長の発見後、高知でも確認されており、牧野講師は調査の結果、このシダがフクロシダやイハデンダと同属であり、剣山から高知にかけて分布することから、こう名づけました。（現在ではこのシダはトガクシデンダと同じものだとされています。）

牧野講師は会場へ向かう途上で、東北地方以北に分布するとされる「アヲチドリ」、中部地方以北でのみ採集されている「ホザキイチヨウラン」等が当地で生育しているのを確認しました。剣山特産の「ナガバノイラクサ」や、珍種の「フヂキ」、「コオニユリ」も見つけ、今回の講習会では当地での未見の種も多数見つかるだろうと述べています。

輝く新星

第7回
渭水会
会長賞

平成26年度に創設された「渭水会会長賞」。これは、研究及び学生としての活動全般において優れた学生に対して贈られるものです。第4回からは、対象を院生にも広げ、学生3名・院生1名に贈呈しています。令和2年度の表彰式は、新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら中止となりました。

令和2年度（第7回）渭水会会長賞の受賞者は
山下裕子さん（大学院総合科学教育部博士前期課程 修了）
佐野みどりさん（総合科学部 国際教養コース）
鈴木菜穂さん（総合科学部 心身健康コース）
山下真美さん（総合科学部 地域創生コース）の4人です。

きっとできる



やました ゆうこ
山下 裕子

私は、今年の3月に徳島大学大学院の修士課程を修了しました。大学生活の4年間もそうでしたが、それ以上に大学院生活の2年間はあっという間でした。進学する前、私は、せっかく大学院にまで行くのだから、この2年間で大切に過ごそうと心に決めていました。そのような思いもあり、授業や実習、修士論文制作のすべてにおいて全力で取り組みました。

特に没頭したのが、修士論文の制作です。2年間の集大成とも言える修士論文は、絶対に自分の納得のいく研究にしようと思っていました。指導教員の山本哲也先生も、「夢でも空想でも何でもいいから、とにかく面白くて誰もやったことがない研究をしよう！」とゼミの度に励ましてくださっていました。しかし、研究テーマを決めるにあたり、なかなか自分のやりたいと思うテーマが浮かばず、とても悩みました。そんな中、ある論文を読んでいて、「こんな研究できたらどうだろう」と漠然とアイデアが浮かびました。それをゼミで山本先生に話したところ、先生は私以上に目を輝かせて、「面白い！」とってくださいました。

こうして私の修士論文の制作が始まりました。今までやったこともないバーチャルリアリティ（VR）の技術を用いる研究だったので、VR空間の制作やアバターの作成など、最初は到底できないと思っていました。しかし、山本先生が「できるできる！」

とゼミの度に励ましてくださり、一歩ずつ実現のための勉強を始めました。実習や授業もあったので、毎日深夜まで大学で研究活動を行い、大学に寝泊まりすることも当たり前の日々でした。このような日々を重ねて、半年をかけてVR空間を完成させました。また、コロナ禍であることから、実験参加者がなかなか集まらず苦労しましたが、周囲の人々の助けがあり、何とか目標人数である80名のデータを取り終え、論文を執筆することができました。

後で振り返ると、修士論文の制作は、私がこれまでの人生の中で最も尽力し、没頭した経験でした。



実験のための試行錯誤中(アバター作成の様子)

心が折れそうになるときもありましたが、指導教員の山本先生や大学院の同期の方々に支えていただきながら、限界を自分で決めずに諦めず突き進むことで、自分の心からやりたいと思った研究を納得のいく形で実現することができました。

そして、この経験自体が自分の中で自信となり、今も私を支えています。もともと修士課程に進学したのは、心理職に就きたいという中学生からの夢を叶えるためで、現在私は、県内の精神科の心理職として働いています。1年目でうまくいかないことも沢山ありますが、きっとできると自分を信じ、今はできることを少しずつでも増やしていこうと思っています。そして、いつかは誰からも信頼される心理師となり、患者様のより良い生活の実現に貢献できるよう、日々精進していきたいと思っています。

ます。それと並行して、修士論文の研究成果も学会発表などで広めていくなどして、私の目標である、科学者―実践家モデルの実現を目指していきます。

最後にはなりますが、この度渭水会会長賞をいただくことができ、大変光栄に思っています。私の大学生活ならびに大学院生活を支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。そして、徳島大学の益々の発展をお祈りしています。

(令和3年 大学院 総合科学研究科 臨床心理学専攻修了)



この研究室で本当に良かったです

★ 出会いは人生を豊かにし、別れは人生を深くする

さの
佐野 みどり



私は、大学入学時より長期の留学をしたいという想いがありました。大学生活を振り返ってみると念願であった長期留学だけでなく様々なことを経験することができました。その中でもスウェーデンへの長期留学が印象に残っています。

大学1年時より総合科学部の留学プログラムを利用して短期の留学にはよく参加していました。以前から長期留学には行きたいと思っておりましたが短期留学を経験することにより、より一層長期留学をしたいと思うようになりました。短期留学では語学の専門的な知識の向上というより、現地の学生と共に折り紙や茶道といった日本文化の楽しさを伝えたり、日本語も教えたりしたことにより、異文化理解はもちろんのこと、自文化理解の大切さを改めて学ぶことが出来ました。



ホストファミリーとの記念写真

そこで、以前よりジェンダー学に興味があったこともあり、男女平等が最も進んでいるとさ



スウェーデンの祭りのひとつである夏至祭を楽しむ

れる国の一つであるスウェーデンのルンド大学への長期留学を決めました。ルンド大学は学生数が北欧最大であり留学生が多く、ほぼ全世界の人と関わることができました。ルンドは町全体がキャンパスといわれており、町の中を歩いていると知らないうちにルンド大学の敷地に入っているということが多々ありました。留学中は、寮生活ではなく、ホームステイをしていました。そのため、スウェーデン人の生活スタイルを身近に感じる事ができ貴重な経験になりました。大学の授業で困難に直面した時は一緒に考えてくれ、試験に合格した時は一緒に喜んで



ベトナムで現地の学生に折り紙を教えました

くれ、私を家族のように大切にしてくれました。語学や専門知識の習得ももちろん大事ではありますがホームステイ先で得

た出会いは一生忘れることはないでしょう。

タイトルにもありますように、「出会いは人生を豊かにし、別れは人生を深くする」この言葉は私が大切にしている言葉です。留学先では様々な出会いと別れがありました。その出会いと別れに必ず意味があると思います。また、自分自身が勇気を出し、一歩踏み出して得た出会いというものもあると思っています。この出会いと別れが今後の私の人生の糧と

なることでしょう。新型コロナウイルスの蔓延により、海外に行くことも難しくなっています。そのため今はホストファミリーと会うことは難しいですが、いつか再会したときには成長した姿を見せられるよう精進したいと思います。

社会人になった今も様々な出会いと別れがあります。すべての出会いと別れを大切にし、そして感謝しながら生活していきたいと思っています。

最後になりましたが、このような素晴らしい賞を頂くことができ大変光栄に思います。ありがとうございます。徳島大学で出会った方々への感謝の気持ちを忘れず、今後も様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。コロナ禍で大変な状況ではございますが徳島大学の今後益々の御発展をお祈り致します。

(令和3年 総合科学部社会総合科学科 国際教養コース卒)



今後につなげる4年間

大学院 創成科学研究科 臨床心理学専攻1年

すずき なほ
鈴木 菜穂



徳島大学での4年間は、コロナ禍にあった最終学年の影響を差し引いてもなお、とても早く過ぎていったように思います。しかし、高校生のときには想像していなかった、たくさんの素晴らしい出会いと経験に恵まれた4年間でした。

高校までにはなかった心理学を勉強することを楽しみに、徳島大学へ入学しました。1年次には幅広い教養を身につける機会をいただき、2年次からは心身健康コースへ進んで、多くの先生方からご指導賜りました。学生生活の中で最も大きな転機となったのは、2年次後期のルンド大学（スウェーデン）への交換留学です。奨学金プログラムである「トビタテ留学JAPAN」の奨学生として採用していただき、また学務係の方々をはじめ職員の皆様方のご支援のおかげで、実りある留学生活を送ることができました。心身健康コースの学生で、しかもそれまで海外へ行ったことがなかったのですが、思いきって留学へ行って本当に良かったと思います。留学中の生活は、平日やテスト前は勉強を頑張り、休みの日には留学先の友人と出かけたり寮でのパーティーを楽しんだりというもので、このようなメリハリのあ

る生活リズムは自分にとって非常に理想的なものでした。また留学を通して、心理支援や研究においてテクノロジーを活用したいという思いを強くし、そ



留学先のルンド大学にあった図書館

の後の研究室選びの際にも大きく影響しました。現在の事態がおさまれば、このような多くの刺激を受けたスウェーデンのルンドに真っ先に行きたいと思っています。

帰国後にはゼミが始まり、山本 哲也 准教授の研究室で一期生としてお世話になりました。ゼミ活動が始まって早々に面白い論文を拝読し、それをきっかけとして今まで以上に心理学やその周辺の学際領域に興味を惹かれるようになりました。ゼミ生で集まって一緒に勉強をしたり他愛もないことを話したり、楽しい時間を過ごせたことも非常に良い思い出となっています。

4年生になると状況は大きく変わりましたが、山本先生にお声がけいただき卒業研究に加えて他の研究にも携わらせていただきました。データ収集から論文投稿までの一連の流れを実際に行う、大変貴重な経験となりました。また、卒業研究では心理学実験を行いました。コロナ禍であったにもかかわらず多くの方にご協力いただくことができました。分からないことがあった際には同期や先輩方にも助けていただき、学部時代を思い返すと、多くの人の支えのおかげで楽しく過ごしていたと改めて感じます。

現在も引き続き、本学の大学院生として臨床心理学の勉強を続けております。実践的な内容も増え、

学部生のときよりも専門的なことを学修しながら、心理士（師）を目指しているところです。心理援助とはどういうことなのか、そしてその中で自分には何ができるのか、頭を抱えて考えながら忙しくしている毎日ですが、同期や先輩方にも恵まれて充実した院生生活を過



大変な中でしたが卒業式を行なっていただきました

ごしております。この修士課程の2年間を通して、先に挙げた問いに対する答えに少しでも近づくための研究を修士論文として形にし、また専門職としてのスキルや心構えも十二分に身につけられるよう邁進いたします。

最後になりましたが、この度は渭水会会長賞をいただくことができ、誠に光栄です。ご指導くださった山本 哲也 准教授をはじめ、ご支援くださった職員の皆様、共に過ごした友人たち、そして日頃から支えてくれた家族に、心より感謝申し上げます。徳島大学がこれからも素晴らしい発展を遂げていくことをお祈り申し上げます。

(令和3年 総合科学部社会総合科学科 心身健康コース卒)

★ 当たり前ではない環境に感謝

大学院 創成科学研究科 臨床心理学専攻1年

やました まみ
山下 真美



今年の春に徳島大学を卒業し、現在は徳島大学大学院に進学して早4ヶ月が経ちました。一足先に社



卒業式はできませんでしたが、大学でできた大切な友人と記念写真

会人として日々頑張っておられる同級生の皆さんほどではないかもしれませんが、私もつい数ヶ月前まで研究室で同期の皆と卒業論文の執筆に必死になっていたのがかなり前のことのように、環境の変化を感じています。改めて4年間を振り返ると、どの活動が1番印象に残っているかを決めることができませんでした。同時に、徳島大学に入学しなければ出会えなかった方々、気付けなかったことがたくさんできたと思っています。

中でも、当時はその時々に興味のあることをひたすら進めていたので気付くことができていませんでしたが、今回それらを振り返る機会をいただいたこ

とで、4年間本当にたくさんの方々に支えていただいたり、良い刺激をもらったりしたからこそ、そのような大学生活を送ることができたのだと心から実感しています。さらに、それらは当たり前ではなかったことにも気付くことができました。

例えば、2年生で2回参加させていただいたアクセシビリティリーダーキャンプ（主に障がいのある方々への支援に関する資格を取得した全国の大学生が集まる3～4日間の課題研修合宿）では、他大学の皆さんのおかげで当時の私にとっては大学生活のうちで1番深いと思える議論を経験することができたり、大学入学直後から一緒に他愛もない話をして盛り上げられる友人がいてくれたりしました。一方で、



アクセシビリティリーダーキャンプで出会った大学の先輩方と

今同じことを経験しようと思うと、コロナの影響により難しいこともたくさんあるかもしれません。

さらに、3・4年生の調査・

研究では、研究と自分のどちらにとっても本当にためになる指導をしてくださった指導教員の田口太郎先生、慣れない調査・研究で上手く進められなかった私にもとても優しく教えてくださった対象地の方々と研究室の先輩方、研究室で共に卒業論文を頑張った同期の皆さん、また2年生で挑戦した長期インターンシップでは、上手く進められないことがあった時に気付いて相談に乗ってくださったコーディネーターの方々と、修了後も広報紙作成などの貴重な機会を与えてくださった受入先の方々と、サークル活動では2年間たくさんの場面で協力してくれた同級生の皆さん、そして4年間を通して落ち込んだ時に何時間にもわたり話を聴いて励ましてくれた地元の友人や両親・祖母がいてくれました。一方で、このように支えていただいたり、良い刺激をもらったりしたことを同じように周りの方々にすることができると考えると、今の私にはできないことばかりだと思います。

そのため、大学生活で関わってくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。私もそのような人になれるよう邁進して参ります。そして、大学院で勉強できている今も決して当たり前な環境ではない

ので、尊敬する方々と共に学ぶことができていることや1年生から希望していた研究室で引き続き勉強できていることに改め



指導教員の田口先生と研究室の同期・先輩・後輩の皆さん

て感謝をしながら、限られた時間を自分自身の納得できるように大切に使えるようさらに精進していきたいと思います。

大学入学時に「渭水会会長賞」について知り、「私も受賞されている先輩方のように充実した大学生活を送れるように頑張ろう」と思った日のことは、今でも鮮明に覚えています。そのため、この度はこのような素晴らしい賞と、渭水会会報に寄稿できるという貴重な機会をいただくことができ、大変光栄に思っております。今後もいただいた賞に値する人になれるよう努めて参ります。最後になりましたが、大学生活でお世話になりました全ての方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

（令和3年 総合科学部社会総合科学科 地域創生コース卒）

徳島大学総合科学部渭水会会長賞表彰要項

（目 的）

第1条 研究活動及び学生としての活動全般について優れた者を表彰する。

（表彰人数）

第2条 学部生3名、修士課程（博士前期課程）院生1名とする。ただし、博士後期課程院生においても特に優秀と認められた場合は、1名を表彰人数に追加することができる。

（表彰者の選考）

第3条 学部生は4年次前期終了、修士課程（博士前期課程）院生及び博士後期課程院生は修了・退学時の前期終了までの研究活動・社会活動・成績等に基づいて行う。

第4条 1 学部生及び前期課程（修士課程）院生においては、次の基準に該当する者とする。

- （1）研究活動・社会活動等で優れた業績を有する者
- （2）GPA上位者

2 博士後期課程院生においては、原則として全国的な表彰を受けた者とする。

（表彰の決定）

第5条 表彰の決定は、学部長が招集する選考委員会で協議し、渭水会会長に推薦し、決定する。

（表彰の時期等）

第6条 表彰は、学部生においては4年次後期、院生においては修了・退学時の後期に渭水会会長が行う。

副賞として1名につき5万円を給する。

（要項の改廃）

第7条 この要項の改廃は、総会の議によって行うものとする。

附 記

- （1）平成29年5月27日（土）の総会で決定し、平成29年度より実施する。
- （2）令和2年5月30日（土）の理事会で決定し、令和2年度より実施する。



|エ|ッ|セ|イ|

2021 雑感

徳島大学医歯薬学研究部統合生理学分野 准教授

し うち てつ や
志 内 哲 也

安全・安心、コンプライアンス、ニューノーマル、ワクチンパスポート。今年の流行語はなんだろう。昨年は「3密」が流行語大賞を取った。あまり楽しいキーワードではなかった。今年はもう少し明るいワードが賞を取ってほしいものだ。しかし、Tokyo 2020が1年遅れで開催され、日本選手の金メダルラッシュに沸いたにもかかわらず、目立った流行語はオリンピックからは湧いてこなかった。むしろ「開催してくれてありがとう」という感謝の言葉が多かった。

個人的には、ダイバーシティやLGBTQ、ジェンダー平等を意識した言葉の広がりが目立った気がする。Tokyo 2020では、トランスジェンダーの元男性アスリートが、女性枠でウェイトリフティングに出場して話題になった。また、競技によっては男女混合の種目が新設された。日本チームがメダルを獲得して記憶に新しい卓球やバドミントン、柔道団体のみならず、競泳のリレーまで男女混合種目が作られた。開会式では男女混合で旗手を務めて入場するルール? になって、五輪旗や国旗の掲揚時にも同数の男女が旗を持って入場した。かたやオリンピック組織委員長が女性蔑視な発言で辞任に追い込まれ、取り繕うように女性が新しい組織委員長に選ばれたこともあった。一方、同じ開会式でもパラリンピックでは、トランスジェンダーで象徴的な芸能人がトップを飾り、片翼の天使が他者からのサポートを受ける様子が描かれるなど、様々な人々を対象とした多様性社会の在り方についてもトピックとなった。

ところで、マスコットであるミライトワとソメイティの影が薄かったのは、青とピンクの色分けがジェンダーフリーと言えなくなってしまったからだろうか。ミライトワは瞬間移動できて、ソメイティは桜の触覚でテレパシーが可能だそう。そんなことができる未来はいつ頃だろう。

私は大学の教養の授業で、ウェルネス総合演習を担当している。そこでは学生に、パラスポーツを体験してもらっている。失って初めて意識する健康と健常のありがたみを、失う前に知ってもらうことや、予防医学の重要性の認知と障がい者への理解が目的だ。パラスポーツでは、障がい者の身心状態を理解することで、多様性社会に少しでも慣れてもらえればと思う。ちなみにこの授業では、病気を治すことよりも予防の重要性を自覚してもらうため、自分の毎日の食事・睡眠・運動の内容と時間を記録する。最近はウェアラブルな機器を用いれば自動で記録されるようになったが、自分で思い返しなが

ら記録の方が短期記憶であるワーキングメモリを鍛えることになるので一石二鳥である。これで日常生活を見直すきっかけになれば幸いである。朝・昼・夕ともアイスのみの学生は要注意だ。

ニューノーマルな社会が構築されつつあり、私も出張が全くない。パスポートが必要な海外どころか、これほど県外にも出ないのは、小学校低学年以来かもしれない。授業も会議も学会発表も、すべてオンラインである。真夏の大冒険にも出られない。もちろん、オンラインの良さもある。旅費が浮くし移動の疲れもない。参加しなくては、電波やオンラインソフトに責任を押し付けることもできる（私はしてない!）。ただ、たまに無観客の場合もある。オンデマンドだ。一人で録音して録画のファイルを作り、いつでも見られるようにしておく様式だ。リアルタイムな反応がないので寂しさはあるが、再利用ができるメリットもある。同じオンラインでもSNSはまた異なる。グローバルな社会性の構築をウリにしているが、匿名性が高すぎて、しょっちゅう炎上や罵詈雑言、誹謗中傷が散見される。ネット空間にはコンプライアンスもへったくれもないようだ。最近は学生に授業を匿名で評価される。これもニューノーマルなのか、怖いことである。今年の評価は総じて、「役に立った」「おもしろかった」ではなく、「対面で開催してくれてありがとう。おかげで友人を作れた!」といった、メダル獲得したアスリートのような感想が多かった。授業内容の評価ではないので複雑である。「うっせえわ」と言われるよりも良かったと、ポジティブに解釈しておく。

コロナ禍で廃業した人も多いと聞く。翻って自分はどうか? 立場的には大学教員だが任期制であり、どんなに頑張ってもあと3年ちょいでクビである。自分にとって安全・安心の雇用は、まだ見えない。

(平成9年 総合科学部人間社会学科 人間行動研究コース卒)



授業中の一コマ。パラスポーツであるシットینگバレーの様子

徳島市退職校長会講演会

会長 ^{みや} 宮 ^{きた} 北 ^{みえこ} 美恵子

徳島市退職校長会は、会員の研修と相互の親睦を図り、併せて本市の教育振興に寄与することを目的として活動を行っています。主な活動として、「総会・新入会員歓迎会」「叙勲・大臣表彰（章）等祝賀会並びに講演会」に加え、教育支援部が中心になって、子ども支援活動を行っています。

さらに、会員の絆を深めるための活動として、「いきいきサロン」を実施し、会員相互の親睦・情報交換にも努めています。

しかしながら、令和2年度は新型コロナウイルスの影響でほとんどの行事が中止になりました。ただ、「講演会」のみ役員参加で開催いたしました。「講演」について次のようにご報告いたします。

1. 期日 令和2年12月6日(日)
2. 会場 徳島市市民活力開発センター
3. 演題 「徳島阿波忌部の歴史」
4. 講師 林 博章 氏
5. 講演要旨

★歴史のメッセージから何を学ぶか

実は、私、今から忌部の話をしますが、何冊か本を出しました。それは、日本の国の謎を解き明かしたかったからです。日本の祭事、長野の古代遺跡、古事記、日本書紀等、ありとあらゆる様々な研究をして、日本の歴史を解き明かすキーワードに最後にたどり着いたのが実は忌部だったのです。忌部をトップにもってくると、様々な歴史の謎が解けてきました。その成果が本として出版されています。

大嘗祭については、「天皇即位と大嘗祭」という本を出版していただき、政府の刊行物にもなり全国的に評価をいただいています。この私の声に込められた流れですが、次の時代に日本人は大嘗祭を通じてどのように生きなければならないのかというのがいつも私が講演で話すことです。歴史は歴史だけを教えるのではなく、歴史のメッセージから私たちは何を学ぶかというのをいつも提案します。

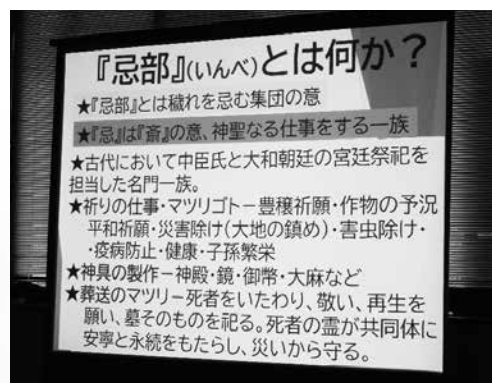
★日本の現状等

本質と本物を求める時代。さらにもう一つ大事なものは、戦後の高度経済成長期で日本人が大事な失ったものがたくさんあります。もう一度日本の原点を見つめ、こらまた新しい日本の未来を創り出す、原点に回帰するという時代に入っているのではないかと思います。

★忌部とは何なのか

忌部というのは穢れを忌む集団です。さまざまな集落、国、個人に降りかかってくる災いを払う仕事をす

るのが忌部という集団です。ただ忌部の「忌」は忌まわしいと書いていますが、「斎」の意味があり神聖な仕事、人々の幸せを祈る集団が忌部でした。さらに、忌部は大事な仕事をしました。天皇が代わられる大祭である一生一度の儀式に匳服という麻の織物、正確に言うと四反の麻の反物を調達するのが阿波忌部の大事な仕事です。これがないと天皇が交代することができません。三木信夫さんが話されたように、これを阿波忌部の調達と言います。匳服の調達と言います。何のために使うかというと、天皇陛下が大嘗宮の中で一晩過ごすのですが、そのときにご先祖の霊、天の神様・地の神様という自然の霊を宿さなければならないのです。そのときに匳服がいるのです。天皇霊の神衣(かんみそ)が匳服です。それだけ重要なものです。これがないと天皇が交代できず、日本の歴史を引き継ぐことができないのです。



★令和の大礼の大嘗祭

2019年11月14日に行われました。亀服の調進団体として、NPOあらたえ（美馬町木屋平）と阿波忌部亀服調進協議会（吉野川市山川町）を結成し、会長は木村雅彦さんが選ばれました。

《参加者の感想》

徳島の三木家の存在や天皇の交代について、思いもかけない現状をたくさん教えていただき、感銘を受けるとともに県民として知るべき事の大切さを痛感した。

（昭和44年 学芸学部小学校課程 地理教室卒）

徳島県退職女性教職員の会 学習会

会長 富田 真由美

日時 2021年4月22日（木）10：30～12：00

会場 阿波観光ホテル

講演 私も「あきらめない。」

～勝訴！そして再び女性支援の場へ～

講師 白鳥の森代表 野口登志子さん

徳島県退職女性教職員の会は、コロナ禍によって、昨年度は総会を開催することができず、今年度も総会を開催するかどうか判断しかねていた。しかし、総会をできるだけ簡素化することで開催に踏み切った。会員の多くは高齢であるにもかかわらず、会場に笑顔を届け、元気に生活していることをお互いに確認し合っていた。総会に引き続き、学習会を開催した。

〈学習会の概要について〉

「あなたが本来の力を取り戻すために、私たちにできること」これは、白鳥の森の理念を示している。元鳴門市職員だった野口登志子さんは、2010年に鳴門市が開設した配偶者暴力相談支援センターの窓口を担当していた。行政によるDV被害者の支援窓口としては四国初のことだった。多くの被害女性が相談に詰めかけ、それぞれの案件に対応していくことは容易ではなく、相談員も増やして被害者に寄り添い支援を続けてきた。しかし、被害女性の対応に関して職員や上司と意見の違いや無理解など、多くの困難に直面した。2016年には、野口さんは別の部署への異動となり、DV被害者の個

人情報を持ち出したとして、市から懲戒処分を受けた。このことは、マスコミ報道され、周知の事実となった。野口さんは、この懲戒処分を不服として裁判所に訴え、司法判断を求めた。その結果、野口さんの懲戒処分は違法だとの判断で取り消す判決が出た。

こうした状況を乗り越えてきたのは、「自分が行っていることに嘘偽りがないのなら、どんな判決になろうとも、最後まで主張し続けるべきだ」（夫の言葉）、多くのDV被害女性が野口さんの処分取り消しを求めて署名を提出した（被害女性は自分の氏名・住所を隠したいにもかかわらず、公に晒してまでも支援をした）こともさることながら、もう一度DV被害者支援の現場に戻るといふ自身の強い思いが、「あきらめない」で頑張れる力となったと語った。

野口さんは「市に勝つことは、DV被害者の支援を続けることだ」として、一般社団法人白鳥の森を開設し、精力的に活動が続けている。コロナ禍でDV被害者は想像以上に増加している。DV被害者の多くは女性であり、閉ざされた家庭という場がDVから逃れることのできない修羅場になってしまっている現実、もっと向き合わなければならない。最もしんどい問題から、目をそらさず、許さず、私たちにできる支援は何かを探っていきたいと思わせる講演だった。

（昭和49年 教育学部中学校課程社会科史学教室卒）



総科ニュース

※この総科ニュースについての詳細は、徳島大学総合科学部総務係にお尋ねください。

徳島大学総合科学部総務係 TEL: 088-656-7103 FAX: 088-656-7298

E-mail: sksoutumuc@tokushima-u.ac.jp

【総合科学部の1年】

令和2年(2020)7月～令和3年(2021)6月

※令和2年8月 総合科学部振興会総会の開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止・予防の観点から、令和2年度の総合科学部振興会（在学生の保護者会）総会は参集形式での開催を中止し、書面報告・決議により実施しました。

※令和2年8月 WEBオープンキャンパスの開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止・予防の観点から、令和2年度の総合科学部オープンキャンパスはWEBにより実施しました。コース紹介などの動画コンテンツをオンデマンド方式で配信したほか、8月28日（金）にはZoomを使ったLIVE OPEN CAMPUSを開催し、多くの方々に視聴いただきました。

※令和2年9月25日（金） 地域系大学・学部等連携協議会に参加（開催校：宮崎大学）

令和2年度地域系大学・学部等連携協議会が宮崎大学で開催され（オンライン会議）、コロナ下の大学教育のあり方等について意見を交換しました。

※令和2年10月8日（木） 国立大学法人17大学人文系学部長会議に参加（開催校：静岡大学）

第20回国立大学法人17大学人文系学部長会議が静岡大学で開催され（オンライン会議）、教育、研究、組織運営、地域連携等にかかる課題について意見を交換しました。

※令和2年10月 優秀学生（3年次学生）の表彰（新型コロナウイルス感染症の影響で表彰式は中止）

学業成績が優秀な学部学生（3年次学生）に贈られる優秀学生表彰式があり、学部3年次の優秀学生9名を表彰しました。表彰者は次のとおりです。

〔国際教養コース〕武田真智子、笹倉拓真

〔心身健康コース〕篠原愛実、中山実咲、原田祐衣

〔公共政策コース〕角 和佳菜、松本奈央

〔地域創生コース〕二宮由衣、賀川歩香

※令和2年11月1日（日） 徳島大学同窓会連合会交流会 オンラインびざん会の開催

令和2年度の徳島大学びざん会（同窓会連合会）がオンラインで開催されました。

※令和2年11月20日（金） 学部長と学部学生との懇談会を開催

学生8名、教職員13名が参加し、学生委員長の司会により、事前アンケートで寄せられた質問・意見を中心に、学生からの質疑に答える形で行われました。

※令和2年11月 康楽賞の贈与

（新型コロナウイルス感染症の影響で表彰式は中止）

徳島大学の優秀な専任教員および学生を対象として、公益財団法人康楽会により「康楽賞」が贈られました。総合科学部の受賞者は次の方々です。

〔学生の部 学術研究関係〕

大学院総合科学教育部 博士後期課程

2年次 西本浩章

総合科学部4年次 東 凌平

総合科学部4年次 鈴木菜穂

〔学生の部 奨学生関係〕

大学院総合科学教育部 博士後期課程

1年次 山川勝也

総合科学部4年次 山下真美

総合科学部4年次 瀬部有紀

※令和3年2月19日（金） 学長と学生との懇談会を開催

総合科学部からは学生2名が出席しました。

※令和3年2月22日（月） 教育部長と大学院学生との懇談会を開催

修了予定者5名、教職員8名が参加し、大学院教務・入試委員長の司会により、大学院生活、履修、修士論文、大学の設備などについての懇談が行われました。

※令和3年3月23日（火） 令和2年度卒業式・修了式ならびに優秀学生の表彰

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、卒業式は代表者のみで挙行了しました。学部卒業生は178

名、大学院修了者は博士前期課程地域科学専攻21名、臨床心理学専攻12名。優秀学生表彰者の4年生は次のとおりです。

〔国際教養コース〕 緒方麻衣、七條あかね

〔心身健康コース〕 熊本晃大、中尾奈緒

〔公共政策コース〕 志方太祐、村上梨沙

〔地域創生コース〕 東 凌平、山下真美、堀口大輔、
徳永彩乃

＊令和3年3月 渭水会会長賞の授与(関連記事→P30) **(新型コロナウイルス感染症の影響で表彰式は中止)**

令和2年度の受賞者は次のとおりです。

〔大学院総合科学教育部博士前期課程〕 山下裕子

〔総合科学部国際教養コース〕 佐野みどり

〔総合科学部心身健康コース〕 鈴木菜穂

〔総合科学部地域創生コース〕 山下真美

＊令和3年4月6日(火) 令和3年度入学式

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、入学式は代表者のみで挙行了しました。入学者数は、総合科学部174名、大学院創成科学研究科地域創成専攻修士課程15名、臨床心理学専攻修士課程6名、大学院総合科学教育部博士後期課程3名。

＊令和3年5月28日(金) 新入生オンライン交流会を開催

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、オンラインでの新入生交流会を開催し、65名が参加しました。

＊令和3年5月29日(土) 徳島大学同窓会連合会交流会 オンラインびざん会の開催

徳島大学びざん会(同窓会連合会)の令和3年度第1回交流会がオンラインで開催されました。

＊令和3年6月 渭水会理事会(総会)の開催 (関連記事→P38)

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、理事会をもって総会に代えさせていただきました(理事会は書面決議により実施)。

＊令和3年6月25日(金) 令和3年度総合科学優秀賞受賞者表彰式の挙行(関連記事→P12)

優れた研究成果を発表した総合科学部教員に対して贈られる総合科学優秀賞に田中佳准教授、内藤直樹准教授が選出され、表彰式が行われました。受賞にかかる研究分野は、田中先生は「人間文化・人間社会の向

上に関する基盤研究」、内藤先生は「地域創生・総合科学に関する研究」です。

【人事異動】

＊学部長の紹介(関連記事→P5)

総合科学部の学部長に高橋晋一教授が選出されました。任期は令和3年4月1日～令和5年3月31日まで。

＊副学部長の紹介

以下の通り、副学部長4名が選出されました。任期は令和3年4月1日～令和5年3月31日まで。

教育担当	田島 俊郎	教授
研究・大学院担当	三浦 哉	教授
グローバル化担当	田久保 浩	教授
地域連携担当	豊田 哲也	教授

＊コース長の紹介

総合科学部社会総合科学科の各コース長に以下の4名が選出されました。任期は令和3年4月1日～令和4年3月31日までの1年間。

国際教養コース	村上 敬一	教授
心身健康コース	佐藤 充宏	教授
公共政策コース	饗場 和彦	教授
地域創生コース	衣川 仁	教授

＊教職員の異動

令和3年3月31日付で、次の教員が退職されました。

栗栖 聡	教授(環境政治学)
山本真由美	教授(発達心理学)

令和3年10月1日付で、次の教員が着任されました。

山口 博史	准教授(社会学)
-------	----------

令和4年4月1日付で、次の教員が着任されました。

山本真由美	特任教授(発達心理学)
-------	-------------

令和4年4月1日付で、次の事務職員が着任されました。

河野 信幸 氏	(事務課長)
森川 未央 氏	(総務係主任)
岩生 恭彦 氏	(総務係事務員)

徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。

詳細は徳大広報ならびに本学HP (<https://www.tokushima-u.ac.jp/>) をご覧ください。

また、徳島大学同窓会連合会のFacebook (<https://www.facebook.com/bizankai/>) を開設しました。

徳島大学の情報をよりリアルタイムでお届けします。ぜひ、「いいね!」をよろしくお願いします。

Facebook



1

徳島大学及び日亜化学工業株式会社、国際的な協働研究所を共同設置

徳島大学は、日亜化学工業株式会社と共同で、世界レベルで活躍できる優秀な研究者・技術者の育成を目的に、徳島国際サイエンス研究所、通称TISI（タイサイ）を2021年1月に設置します。

同研究所は日亜化学工業の仲介により、国際的に高く評価されている大学であるテクニオン・イスラエル工科大学と連携し、2021年1月より国際共同研究に取り組みます。テクニオンはイスラエルで最も歴史のある大学であり、同時に、世界最高水準の研究力と教育システムを誇っています。

2

THE大学インパクトランキング2021 SDG3 「すべての人に健康と福祉を」で、国内3位（国立大学1位）、世界67位を獲得

THE大学インパクトランキング2021は、大学の社会貢献の取り組みを国連のSDGsの枠組みを使って可視化するランキングで、SDG3「すべての人に健康と福祉を」において、エントリーした国内64大学の中で第3位（国立大学第1位）、世界871大学の中で第67位にランクインしました。徳島大学は、これからも本学の特徴を活かし、教育・研究・社会貢献により、地域から世界の課題であるSDGsの達成に関与することを重要なミッションとしていきます。

3

国際交流資金による外国人留学生奨学金授与式を開催しました

今回留学生に授与された奨学金は、徳島大学国際教育研究交流資金（総合科学・理工学系）及び藤井・大塚国際教育研究交流資金（医学・歯学・薬学・生物資源産業学系）として、本学の国際交流事業を支援するために企業や団体の方々からいただいた寄附金から支給されます。

徳島大学国際教育研究交流資金及び藤井・大塚国際教育研究交流資金は、本学の国際交流、とりわけ外国人留学生の支援に大きな役割を果たしてきました。ご寄附をいただいた企業、団体の皆様のご厚意に感謝すると同時に、留学生の皆さんのますますのご活躍を期待します。

4

とくしま生協及び徳島大学生協から「一人暮らしの大学生応援」として、お米や食品、日用品をご提供いただきました

7月15日（木）に、とくしま生協と徳島大学生協が協賛し、「一人暮らしの大学生応援」として、お米や食品、日用品を詰め合わせたセット400人分を提供いただくこととなり、とくしま生協の大久保理事長及び徳島大学生協の神田専務理事が、野地学長を表敬訪問され、目録を受領しました。

大久保理事長からは、収入の減少により厳しい生活を強いられる学生が増えている中、地域に根差した生協として学生の応援がしたいという企画の趣旨についての説明があり、今回の企画を通じて、未来ある学生に元気で頑張ってもらえるような支援となればという想いを伺いました。

徳島大学基金へのご協力をお願い

「徳島大学基金」は、皆さまから事業区分ごとにご支援いただいた寄附金を基金として積み立て、徳島大学の教育研究等の発展のために使用させていただくものです。平成28年にリニューアルし、webサイトからクレジットカードやコンビニを利用したお申し込みも可能となりました。また、古本の買取額を募金していただく取組も行っています。

詳しくは徳島大学基金ホームページ (<https://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/>) をご覧ください。

●基金に関するお問合せ

徳島大学基金事務局（担当：総務部同窓生・基金室） TEL. 088-656-9981

●申込手続き、税制上の優遇措置に関するお問合せ

徳島大学財務部資産管理課 TEL. 088-656-7037

徳島大学基金

検索



事務局だより

●助成事業の申し込みについて

助成事業の要項に該当する事業をご計画の会員がおられましたら、お申し込みください。P45の申請書をコピーしてお使いください。事務局にご連絡いただければ、様式（Word形式）をお送りします。お問い合わせ・お申し込みについては事務局までお願いいたします。

●異動届のお願い

会員相互の親睦等同窓会活動に、また、会報のお届けにと名簿は、渭水会にとって、重要な財産のひとつです。名簿の整備・管理には、鋭意努力しておりますが会員の皆様方のご協力が不可欠です。

現在、転居等により会報をお届けできていない会員も多数おられます。お手数ですが異動等ございましたらその都度事務局までお知らせいただければ幸いです。

会員数も膨大になり同姓同名の会員もおられます。誤記を避けるためにも、卒業（修了）年、課程（学科）、専攻（コース）、旧姓を記載いただき、できるだけ文書・ファックス・メールにてお知らせくださいますようお願いいたします。

●終身会員の募集についてのお願い

渭水会では、昭和54年入学生より終身会費制になりましたが、まだご存じない方がおられます。同窓会の折に渭水会の組織・事業等をお話いただき終身会員になってくださるようお勧めいただければ幸いです。終身会員には会報が郵送されます。

終身会費納付額

卒業（修了）年	納付額
昭和21年以前	4,500円
22～27	7,500円
28～33	10,500円
34～39	13,500円
40～45	16,500円
46～51	19,500円
52～57	22,500円

郵便振替口座番号 01610-1-21392
加入者名 徳島大学渭水会

なお、会報がお手元に届いている方は、すでに終身会員ですが、ご自分が終身会員かどうか分からない方は、事務局までお問い合わせください。

渭水会事務局

事務局は総合科学部1号館北棟1階入り口すぐ（部屋番号1N01）です。

業務時間および連絡方法は、以下の通りです。

時間／水曜日 13：30～17：00

（祝祭日および大学の休業日は除く）

TEL 088-656-7293（月～金 10：00～17：00）

FAX 088-679-8485

E-mail info@isuikai.jp

URL <https://www.isuikai.jp>

編・集・後・記

●寂しくなったキャンパスを見守ってこうと思ってから、早一年。少しずつ学生の姿が戻ってきたキャンパスを見ながら、コロナ禍でも夢をもった学生が社会へ旅立ち、様々な研究活動が行われてきた総合科学部を誇りに思います。記念すべき会報50号ではその様子もたっぷりご紹介しています。初の読者プレゼントにも奮ってご応募ください！（U3）

●マスクや手指消毒、検温などもすっかり日常（?!）となり、それでも少しずつトンネルの出口が見え始めました。広報委員会も対面ではなかなか行えないな

かでしたが、皆様のご協力で、50号記念にふさわしい誌面になったと自負しています。

●特集は、「コオロギせんべい」で一躍全国的な話題となった徳島大学発ベンチャー、長年にわたりボランティア活動に打ち込んでこられた人々の2本立てです。また、初企画の「読者プレゼント付きアンケート」では、誌面でご紹介の記事関連グッズ、渭水会オリジナルグッズなどをご用意しています。ふるってご参加ください！アンケートハガキでいただいたご感想・ご意見は今後の編集の参考とさせていただきます。50号を節目に、より皆様楽しんでいただける誌面作りを目指していきたいと思います。（ね）

発行所／徳島大学渭水会・〒770-8502 徳島市南常三島1丁目・徳島大学総合科学部内・TEL 088-656-7293 FAX 088-679-8485

印刷所／株式会社坂東印刷・〒776-0001 徳島県吉野川市鴨島町牛島3043・TEL 0883-24-2234

発行日／2021年（令和3年）11月30日

常三島 今昔 ①

キャンパスに飛行機の格納庫!?



体育祭で賑わう秋のひとコマ。白塗りのメイクや、和服姿が混じっているところを見ると、仮装行列のスタートを待っているのだろうか。後ろに並ぶ2つの建物は、左が音楽棟、右の大きい建物は体育館。どちらも、小松島市和田島にあった飛行機の格納庫を移築したものだという。

(学園創立80周年記念式典及び附属行事写真より／学芸学部 1954-55)